

一般社団法人日本人間工学会 2025 年定時社員総会資料

- I. 2024 年度事業報告
- II. 2024 年度収支決算(案)
- III. 2025 年度事業計画(案)
- IV. 2025 年度収支予算(案)

一般社団法人日本人間工学会
Japan Human Factors and Ergonomics Society (JES)

2025 年 5 月 23 日
北九州国際会議場(北九州市)

I.2024年度事業報告

I.会勢報告

{総務担当:河合 隆史、申 紅仙}

【総 数】

(単位:人)

会 員	2024年4月1日	2025年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減
		1,215	1,202	61	74

会員資格変更

正会員:	1,147	1,110	29	69	-40	3
準会員:	68	92	32	5	+27	-3

【内 訳】

(単位:人)

支 部	2024年4月1日	2025年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減 ():支部間 の移動
北 海 道	25	22	1	6	-5 (+2)
東 北	41	42	2	1	+1 (0)
関 東	687	681	35	41	-6(0)
東 海	107	109	6	4	+2(0)
関 西	208	202	9	16	-7(+1)
中 国・四 国	84	86	4	2	+2(0)
九 州・沖 縄	59	55	4	4	0(-4)
国 外	4	5	0	0	0(+1)
賛 助 会 員	22社 23口	20社 21口	0社 0口	2社 2口	-2社-2口

2. 事業報告

2024年度は、一般社団法人日本人間工学会第9期（2024年6月～2026年5月予定）の1年目として、学会の活性化や会員向けサービスの充実に向けた取り組みを継続した。

委員会主催のセミナー等イベント開催に加え、学会で受託するプロジェクトの定義・位置づけの明確化、新たな表彰カテゴリとして実践論文賞の選考と表彰を行った。さらに、論文の投稿・査読管理システムの移行を策定し、次年度に実施することとした。

- (1) 2024年定時社員総会を2024年6月22日に公立千歳科学技術大学において開催し、2023年度事業報告・収支決算、2024年度事業計画・収支予算等について審議し、決定した。
- (2) 日本人間工学会第65回大会を小林大二大会長のもと2024年6月22日(土)～23日(日)に公立千歳科学技術大学で開催した。
- (3) 学会誌「人間工学」の第60巻2～6号及び第61巻1号の計6冊を発行した。
- (4) 理事会を2024年5月17日, 6月21日, 6月22日, 9月30日, 12月23日, 2025年3月3日の計6回開催した。
- (5) 2024年度研究奨励賞(1件), グッドプラクティス最優秀賞(1件) 優秀賞(1件), 実践論文賞(2件), 功労賞(2名), トップ10%査読者賞(3名), 標準化貢献賞(3名)の表彰を総会時に行った。
- (6) 人間工学専門家認定機構において、各種の専門家資格の試験を実施した結果、認定試験(A方式試験)合格者5名, 準専門家合格者32名, プラクティショナー5名を新たに得た。その結果, 2024年度末現在の認定人間工学専門家は210名, 準専門家206名, プラクティショナー19名, シニアCPE19名となった。
- (7) 企業活動推進委員会主催で2024年11月28日に「研究倫理の視点からみるユーザリサーチ: 研究開発プロジェクトにおける実践ガイド」(有料, 学会員は無料)を開催した。
- (8) 以下の常設委員会・担当及び臨時委員会・担当において各事業を積極的に進めた。

8-1) 広報委員会

ホームページ, JES ニュースレターを中心に広報活動を推進した。グッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続するとともに, 全国大会だけでなく, 支部大会や講演会, 周辺学会などで広報を行った。

8-2) 編集委員会

学会誌「人間工学」の運営方針「投稿したい, 読みたいジャーナルを目指して」を軌道にのせるとともに, 人間工学のプレゼンスをより高める学術誌を目指す取り組みを進めた。1) 理論系・実践系論文ごとによる査読基準の継続運用, 2) 査読委員制度, 3) 迅速査読などの運用は継続しつつ, 4) 60周年記念企画として「理事の考えるリサーチイシュー」の運用, 5) 実践系論文の投稿呼びかけ, 6) サステナブルな編集委員会運営について取り組んだ。また, 7) 表彰委員会との協同による査読者表彰制度の運用(トップ10%査読者賞)等を行った。2024年度に採否が判定した投稿論文は通常投稿が29編(採択24編, 不採択5編, 採択率83%)であった。

8-3) 国際協力委員会

IEA 評議会(ジェジュ, 韓国, 7月24日)等, 国際協力関連会議に委員が出席した。併せて, IEA Congress 2024(ジェジュ, 韓国)に参加し, 国際連携について協議した。また, IEA との連絡の窓口となり, JES の情報を IEA に展開するとともに IEA の情報を JES に展開した。ACED 評議員会(雲林, 台湾, 3月7日)の出席, ならびに ACED 開催に向け会員への情報提供を行った。

8-4) ISO/TC159国内対策委員会

新規提案2件, DIS等の規格原案に関する計54件の投票を行うとともに, 国内委員会を開催し(全体会議3回, 分科会32回)審議を行った。また, 国際会議出席(28回, 延べ93名出席)などによってISOにおける人間工学標準の見直し, 審議等に寄与した。

8-5) 表彰委員会

表彰選考等に関係する広報委員会, 編集委員会, 国際協力委員会, ISO/TC159国内対策委員会, 人間工学専門家認定機構等と連携し, 公正な業務運営のもと2024年度各賞受賞者に対する授与式を行った。2025年度各賞の選考を行うとともに, 表彰の準備を進めた。

8-6) 学術委員会

「学術担当」の名称を「学術委員会」に改称した。他学会と学術交流機会を設ける主旨で、日本感性工学会(会長:上條正義(信州大学))との間で高校生等を対象としたオープンセミナー企画等の立ち上げ等について検討した。2023 年度に人間工学研究の技術指導依頼のあったエジプト日本科学技術大学の学部長との間で共同研究推進について検討した。

8-7) 若手支援委員会

人間工学専門家認定機構と合同で、第 64 回大会時にランチョンセミナー「ジブンとミライと人間工学—学生同志や企業の先輩との交流カフェ—」を開催し、第53回関東支部大会時に学生・若手支援カフェセミナー「ジブンとミライと人間工学 ~ 学生同志や企業の先輩と想いを巡らす 90 分 ~」を開催した。また、準会員から正会員への移行に促す制度の検討を行った。

8-8) 企業活動推進委員会

企業における人間工学活動をアクティブにするために、企業間、産学連携などの情報交換の場として、3つの取り組みを実施した。1) 日本人間工学会第 65 回大会での企画セッション、2) 2024 年度 KANSEI “感性” サロン、3) オンライン・セミナー「研究倫理の視点から見るユーザリサーチ: 研究開発プロジェクトにおける実践ガイド」を企画・運営し、企業等での実践的な取り組みに繋げるための情報発信を行うことができた。

8-9) 国際誌検討委員会

特色ある公式英文誌の方向性として、①「理論と実践の橋渡し」を促進させるジャーナル、②和文誌の資産を継承したハイブリッド・ユニバーサルジャーナル化(多言語対応)を進めるべく、新規組織体制・運用方法の検討に着手した。

8-10) 普及委員会

新たな学会員獲得のための外部ステークホルダ向けの事業として、2024年 12 月 16 日に第 24 回「安全・安心のための管理技術と社会環境」ワークショップ、2025年 1 月 25 日に産業医学推進研究会 九州地方会研究会を共催セミナーとして行った。また、学際領域である学会の価値を再認識頂くための内部ステークホルダ向け事業である「人間工学のツマミになる読書」(第 1 回)を2025年 3 月 6 日にオンラインにて開催した。

8-11) 戦略・将来構想委員会

日本人間工学会第 65 回大会において、デジタル庁の方に参加いただき、デジタル社会のアクセシブルデザインという企画セッションを行った。また、Jeju で開催された IEA Congress 2024 にて、2023 年度に登壇したウェビナー講演「Future of Ergonomics」に関するセッションに参加し、日本と世界の人間工学の将来構想について議論を行った。

8-12) PSE 委員会

IEA PSE (Professional Standard and Education) 委員会と連携しながら JES および BCPE-J 会員のスキルアップについて検討した。IEA2024@Jeju, Korea にて国際パネルディスカッションを企画・開催した。

8-13) 利益相反・倫理委員会

利益相反・倫理委員会を組織し、規程の整備に着手した。倫理指針について国の指針に照らし再改定すべき点の検討を開始した。また他学会の動向の調査を行った。

8-14) 人間工学研究標準化推進委員会

人間工学に関する研究成果を社会へ普及させる一環として JIS および ISO 等の標準化活動の枠組みを活用し、人間工学研究の社会実装を促進する活動を実施した。

(9) 新たに5つのプロジェクト事業を行い、各事業を積極的に進めた。

9-1) AMED プロジェクト

日本医療研究開発機構(AMED)によるヘルスケア社会実装基盤整備事業「メンタルヘルスに対するデジタルヘルス・テクノロジー予防介入ガイドライン」への運営協力を行った。

9-2) 厚労科研プロジェクト

日本人間工学会(JES 代表として鳥居塚崇理事長が協議会座長)が中心となり、厚生労働科学研究費補助金(労働安全衛生総合研究事業)を得て「陸上貨物運送業を対象とした Minds 参照型腰痛予防対策ガイドラインの策定と予防対策の普及実装の推進」を推進した。

9-3) 人間工学事典発刊プロジェクト

2005年に丸善出版より発行された「人間工学の百科事典(大島正光監修)」は20年が経過している。今の時代に即した人間工学の「全体像」ならびに「展望」を広く社会へ伝えることを目的とした新しい学会公式の「人間工学事典」の発刊に向け、検討を進めた。

9-4) ABW プロジェクト

今年度の事業として、ABWIに関する国際標準の原案のうち1件の技術報告書(TR)の開発、1件の国際標準(IS)の開発を行った。また、1件の国際標準(IS)の開発準備を行った。

9-5) 子どもICTプロジェクト

学校において安全で快適にICT機器を利用できるように、児童生徒や学校関係者に分かりやすく実用的な情報を伝えることを継続的に検討し、これまでに作成したウェブサイトを活用して、学校教員などに委員会活動を紹介した。

(10) 支部, 部会

北海道, 東北, 関東, 東海, 関西, 中国・四国, 九州・沖縄の計7支部と, ビッグデータ人間工学研究部会, PIE研究部会, 科学コミュニケーション部会, 感性情報処理・官能評価部会, 衣服人間工学部会, 医療労働関連MSDs研究部会, 航空人間工学部会, アーゴデザイン部会, 海事人間工学研究部会, ワーク・アーゴノミクス研究部会, システム大会部会の計11研究部会が, 多彩な活動を行った。

(11) 関連学術団体等

関連学術団体等の共催・協賛について, 学会誌やHPイベント案内, ニュースレター掲載等を行った。

(12) 学会事務局

学会事務局では, JENC 事務局業務, 編集業務の担当など管理業務の見直しを行い一層の効率化と経費節減を図った。さらに, 学会誌や大会講演集の J-STAGE への公開を進め, 学会 HP および JES ニュースレターの配信により迅速な情報提供に努めた。

3. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

3-1. 広報委員会

{委員長:松田 文子,副委員長:下村 義弘}

- (1) 理事会, 支部, 委員会, 研究部会, 事務局などと連携・協力のもと, ホームページ, JESニュースレターを中心に広報活動を推進した。
- (2) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続するとともに, 全国大会だけでなく, 支部大会や講演会, 人間工学専門家認定機構 (BCPE-J) の会合, 周辺学会などで周知を行った。BCPE-Jおよび表彰委員会との連携により, GP賞の受賞者が総会に参加しやすくなるよう, GP賞の決定時期を早める試みを行った。
- (3) 「人間工学の総合データベース (ERGO Directory)」の取り組みを継続し, 人間工学の社会への普及に努めるとともに, 学会事務局, 各委員会と連携し, 広報活動を行った。
- (4) 「ピックアップがんばる人間工学家」の活動を人間工学専門家認定機構と連携しておこなった。

3-2. 編集委員会

{委員長:村木 里志,副委員長:近井 学}

- (1) 会誌「人間工学」の編集・発行
 - 1) 2024年04月:第60巻2号 (pp.059-156) :エディトリアル1編,リサーチ・イシュー7編,実践報告1編,オープンデータ1編,原著論文3編,短報1編 他
 - 2) 2024年06月:第60巻3号 (pp.157-190) :エディトリアル1編,リサーチ・イシュー4編,オープンデータ1編 他
 - 3) 2024年08月:第60巻4号 (pp.191-244) :エディトリアル2編,リサーチ・イシュー4編,総説1編,原著論文1編 他
 - 4) 2024年10月:第60巻5号 (pp.245-332) :エディトリアル1編,リサーチ・イシュー4編,実践報告1編,オープンデータ1編,原著論文4編 他
 - 5) 2024年12月:第60巻6号 (pp.333-376) :エディトリアル1編,リサーチ・イシュー2編,技術報告1編 他
 - 6) 2025年02月:第61巻1号 (pp.001-080) :エディトリアル1編,リサーチ・イシュー3編,実践報告1編,オープンデータ2編,原著論文2編 他
- (2) 第9期編集委員会では学会誌「人間工学」の運営方針「投稿したい,読みたいジャーナルを目指して」を軌道にのせるとともに,人間工学のプレゼンスをより高める学術誌を目指す取り組みを進めた。
 - 1) 理論系・実践系論文ごとによる査読基準の継続運用
 - 2) 査読委員制度の運用
 - 3) 迅速査読制度の運用
 - 4) 60周年記念企画として「理事の考えるリサーチ・イシュー」の掲載・運用
 - 5) 実践系論文の投稿呼びかけ(関東・中国四国・九州沖縄支部大会での編集委員会企画プレゼン実施)
 - 6) サステナブルな編集委員会運営(役割分掌の明確化)
 - 7) 表彰委員会との協同による査読者表彰制度の運用(トップ10%査読者賞)
 - 8) 編集委員会ニュースレターの配信
 - 9) JES65回大会での編集委員会企画「新旧編集委員長と語ろうー編集委員会の取り組みと今後の方針ー」の開催
- (3) 編集委員会の開催
編集委員会を3回(2024年6月,8月,12月),査読委員会を2回開催した(2025年3月)。
- (4) 投稿論文数・採択率・査読期間
2024年度に受け付けた投稿論文は,通常投稿が31編であった。2024年度に採否が判定した投稿論文は通常投稿が29編(採択24編,不採択5編,採択率83%)であった。また,2024年度に判定が確定した論文の1回目査読結果返却の平均日数は,採択論文22.7日,不採択論文27日,投稿から最終判定通知までの平均日数は,採択論文107日,不採択論文40.2日であった。

3-3. 国際協力委員会

{委員長:持丸 正明,副委員長:八木 佳子}

(1)委員会開催

MLによる委員会の開催,そのほか関連事項について緊密な連絡を実施

(2)理事会審議・報告

次回日韓共同シンポジウム開催についての審議,国際学会の協賛依頼の承認,国際協力委員会のウェブサイトにおける情報公開についての紹介,関連学会の日程と開催方法についての報告など

(3)国際交流

・IEA 評議会(ジェジュ,韓国,7月24日)への出席

小谷委員が現地で開催した,ECメンバー報告,PSE委員会報告,IEA2024大会の状況,IEA Awards委員会報告,諸団体との覚書について,監査報告,および各国加盟学会からの近況報告などが行われた。

・IEA Congress 2024(ジェジュ,韓国)への出席

・ACED評議会(雲林,台湾,3月7日)への出席

小谷委員長,持丸委員が現地で開催し,次回大会や今後の運営方法について話し合った。

・JES-ESK-EST(台湾)ジョイントシンポジウムの開催(日本人間工学会第66回大会と併催予定)の協議を行った。

・会員に向けて国際会議のMLなどによる広報,情報提供

3-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長:佐藤 洋,副委員長:横井 孝志}

(1)委員会開催,国際会議出席状況

・国内委員会:全体会議3回,分科会32回(メール審議含む)

・国際会議出席状況:28回の国際会議に延べ93名出席(ネット会議を含む)

(2)発行規格,投票

<新ISO規格>:2件

<投票>:NP 11件,CD 5件,PWI 4件,FDIS 4件,CD 5件,DIS 1件ほか

(3)分科会活動(メール審議含む)

・SC1(人間工学の一般原則)&WG 分科会6回開催

・SC3(人体寸法と生体力学)&WG 分科会10回開催

・SC4(人間とシステムのインタラクション)&WG 分科会10回開催

・SC5(物理的環境の人間工学)&WG 分科会4回開催

・アクセシブルデザイン関連会議 分科会2回開催

(4)サービス人間工学の2件の新規案件提案

・TC159直下のWG3設立提案を伴った提案(ISO/AWI 21372),およびSC1/WG5における提案(ISO/WD 27502)を実施した。

3-5. 表彰委員会

{委員長:吉武 良治,副委員長:國澤 尚子}

(1)表彰選考等に関係する広報委員会,編集委員会,国際協力委員会,ISO/TC159国内対策委員会,人間工学専門家認定機構等と連携し,公正な業務運営を行った。

(2)2024年定時社員総会において功労賞,研究奨励賞,人間工学グッドプラクティス賞,トップ10%査読者賞,標準化貢献賞,実践論文賞の授与式を行った。

(3)関西支部大会,東海支部大会,関東支部大会において,優秀研究発表奨励賞の授与を行った。

(4)功労賞,論文賞,研究奨励賞,人間工学グッドプラクティス賞,トップ10%査読者賞,標準化貢献賞,実践論文賞候補の選考を行うとともに,表彰の準備を行った。

3-6. 学術委員会

{委員長:加藤 麻樹,副委員長 能登 裕子}

「学術担当」の名称を「学術委員会」に改称した。他学会との学術交流機会を設ける主旨で,日本感性工学会(会長:上條正義(信州大学))との間で高校生等を対象としたオープンセミナー企画等の立ち上げ等について検討した。2023年度に人間工学研究の技術指導依頼のあったエジプト日本科学技術大学の学部長との間で共同研究推進に就いて検討した。

3-7. 人間工学専門家認定機構

{機構長:榎原 毅,副機構長:仲谷 尚郁}

(1)会員状況(2025年3月31日現在)

認定人間工学専門家 210名(2024年度 資格取得者5名,退会者7名)

認定人間工学準専門家 206名(2024年度 資格取得者32名,退会者8名)

認定人間工学プラクティショナー 19名(2024年度 資格取得者2名,退会者0名)

シニア認定人間工学専門家 19名(2024年度 登録者4名,退会者0名)

(2)資格認定試験及び審査実施状況

資格認定試験(A方式試験)を2回実施(東京 2024年9月7日,大阪 2025年2月15日)。

受験6名,合格5名。

準専門家の書類審査を年4回実施。プラクティショナーは8月1日より応募受付を開始し,審査を実施。

準専門家:応募33名,書類審査に32名合格。

プラクティショナー:応募5名,書類審査に5名合格

(3)定期総会・講演会の開催

講演会 2024年4月19日(金)15:00~16:45

講演1:山田 幸子(本田技研工業株式会社)

「自動車の研究開発と機構の幹事活動~2つがもたらす相乗効果~」

講演2:水本 徹(株式会社島津製作所)

「島津製作所における人間工学専門家の活動」

総会 2024年4月19日(金)17:00~17:50 現地(TKP 新宿)とオンラインのハイブリッド開催

出席者:70名(現地27名,オンライン43名),委任状109名

(4)臨時総会の開催

期間:2024年6月17日(月)~6月21日(金)

審議事項:規約改定について(認定人間工学アシスタント資格の名称変更,および認定制度の改定)

結果:賛成多数により,総会提案の通り「人間工学専門家認定機構規約を改定」を承認。

(5)幹事会の開催

第54回幹事会(10期第7回) 2024年4月5日(金)15:00~16:30 オンライン開催

第55回幹事会(11期第1回) 2024年9月19日(木)15:00~17:27

芝浦工業大学豊洲キャンパスおよびオンライン開催

第56回幹事会(11期第2回) 2025年2月26日(木)14:00~16:12 オンライン開催

(6)再認定の実施

資格更新時期を迎えた認定人間工学専門家,認定人間工学準専門家,認定人間工学プラクティショナーへ再認定手続きについて連絡し,手続きを進めた。

(7)企画シンポジウムの開催

日本人間工学会若手支援委員会とコラボし,若手支援イベントを2回開催した。

・日本人間工学会第65回大会(公立千歳科学技術大学)

開催日時:2024年6月22日(土)15:10~16:40

タイトル:オールジャパン学生交流カフェジブンとナカマの未来と人間工学-

・関東支部大会(産総研 臨海副都心センター)

開催日時:2024年12月7日(土)12:00~13:30

タイトル:学生・若手支援ランチョンセミナー『ナカマとツナがる人間工学』

(8)各支部大会にて機構の資格制度や資格取得メリットのPR・発表を実施

・関東支部大会(12月7日開催) ・東海支部研究大会(11月2日開催)

・関西支部大会(11月30日開催) ・中国・四国支部大会(11月30日開催)

・九州・沖縄支部大会(11月30日開催)

(9)イベントの開催

CPE交流会(CPEサロン) 内容:ライトニングトーク&情報交換会

日時:2025年3月18日(火)15:00~17:30 場所:芝浦工業大学豊洲キャンパス

(10)会報(Web版)の発行

会報Vol.75(2024年5月23日発行)

会報Vol.76(2025年2月26日発行)

(11)人間工学グッドプラクティス(GP)賞への協力

表彰委員会と協力し,認定人間工学専門家による一次審査を実施し,6月22日の2024年日本人間工学会定時社員総会にて第12回の表彰を行った。

(12)資格制度の改訂(準専門家・アシスタント)

準専門家とアシスタントの応募要件の改訂を行い,認定人間工学アシスタントは名称を「認定人間工学プラクティショナー」に変更した。また,資格更新時にはポイントの申請を必要とすることを決定し,準専門家とプラクティショナー登録者にその旨連絡をした。

[臨時委員会・担当]

3-8. 若手支援委員会

{委員長:石橋 圭太,副委員長:齋藤 誠二}

- (1) 人間工学専門家認定機構と合同で、第 65 回大会時に企画セッション「オールジャパン学生交流カフェ〜ジブンとナカマの未来と人間工学〜」を開催し、第54 回関東支部大会時に企画セッション【学生・若手支援ランチオンセミナー ナカマとツナがる人間工学〜仲間・先輩との交流とランチ ダブルで美味しい 90 分はいかが?〜】を開催した。いずれも、学生・社会人の混合グループに分かれて自身の研究や就職、仕事等についてディスカッションが行われた。

3-9. 企業活動推進委員会

{委員長:横山 詔常,副委員長:井出 有紀子}

- (1) 日本人間工学会第 65 回大会での企画セッション「人間工学に取り組む企業・研究室の紹介〜ポスター展示による対話形式〜」にて、人間工学関連業務の課題についてディスカッションし、情報共有した。
- (2) 2024 年度 KANSEI “感性” サロン(2024 年 10 月 11 日)を企画・開催し、人間拡張に関する取り組みを周知した(参加者 165 名)。
- (3) オンライン・セミナー「研究倫理の視点から見るユーザーサーチ:研究開発プロジェクトにおける実践ガイド」(2024 年 11 月28日)を開催し、2名の専門家(大須賀美恵子先生, 下村義弘先生)より、人を対象とした研究倫理面での対策について実例を含んだ実践的な取り組みについて紹介いただいた。
- (4) 2025 年度実施予定の「人間工学リレーセミナー」を立案し、準備を開始した(5地域で開催予定)。

3-10. 国際誌検討委員会

{委員長:榎原 毅,副委員長:村木 里志}

- (1) 日本人間工学会による学術成果の国際発信基盤整備を検討する新規体制について検討に着手した。
- (2) 前期委員会に引き続き、特色ある公式英文誌の方向性として、①「理論と実践の橋渡し」を促進させるジャーナル、②和文誌の資産を継承したハイブリッド・ユニバーサルジャーナル化(多言語対応)、③創刊時にオンラインジャーナルへ移行、④ IEA Endorsement Journal 化、の 4 つの方向性を具現化する方策の検討を行った。

3-11. 普及委員会

{委員長:松崎 一平,副委員長:和田 一成}

- (1) 委員会(全 11 名)を組織し、社会に人間工学を広く普及させるため、新たな学会員獲得、および退会者減少を目的に、外部ステークホルダーと内部ステークホルダー向けの事業に分けてアイデア出しを行った。
- (2) 委員全体を 5 つのチーム(ABCDE)に分けて議論を進め、実行すべき事業を整理した。委員会としての立ち位置を PVMOM(Purpose, Values, Methods, Obstacles, Measures)で共有し、Teams での情報共有を行いながら、再編された 2 つのチームが自律的に事業を進める体制を整えた。
- (3) ADE チームでは、第 66 回大会において、若い世代に人間工学を知っていただく取り組み「北九州工業高等専門学校タイアップ・ワークショップ」の企画を進め、地域における人間工学普及のため「キャリアタイムサポーター」制度を東海支部と連携するための議論を深めた。

- (4) BC チームでは、異分野との共催セミナー、会員同士の読書体験を共有するオンラインサロン「人間工学のツマミになる読書」(第1回)を開催し、第66回大会において会員の研究内容や学会活動の魅力などを紹介するパネル企画「ほっと一息、人間工学—研究者たちの軌跡をたどる—」を計画している。

3-12. 戦略・将来構想委員会

{委員長:持丸 正明,副委員長:鳥居塚 崇}

学会の組織的対外活動として行政に対する働きかけが重要であるという 2022 年度策定の基本方針に基づいて、日本人間工学会第 65 回大会において、デジタル庁の方に参加いただき、「デジタル社会のアクセシブルデザイン」という企画セッションを行った。来るべきデジタル社会において、人間工学がどのように関わっていくべきかについて、会場からも活発な質問があり、有意義な議論となった。加えて、Jeju で開催された IEA Congress 2024 にて、2023 年度に登壇したウェビナー講演「Future of Ergonomics」に関するセッションに参加し、世界の人間工学の将来構想について議論を行った。

3-13. PSE 委員会

{委員長:鳥居塚 崇,副委員長 榎原 毅}

IEA PSE (Professional Standard and Education) 委員会と連携しながら JES および BCPE-J 会員のスキルアップについて検討した。JES 理事長と BCPE-J 機構長が定期的に情報交換を行い、人間工学の発展に向けた施策について検討した。またフランス CNAM と定期的なミーティングを重ね、システムズアプローチの方法論についての議論を深めた。IEA2024@Jeju, Korea(2024/8/26)にて、国際パネルディスカッション「Activity theories and systems approaches in ergonomics: issues, challenges and perspectives」を企画・開催した。

3-14. 利益相反・倫理委員会

{委員長:大須賀 美恵子,副委員長 鳥居塚 崇}

- (1) 学会が社会に対する説明責任を果たし、学会活動(理事会、委員会、学会および学術誌での発表など)の利益相反 (Conflict of Interest) 状態の透明性を確保し、公正な研究を推進していくために、利益相反のマネジメントを行う体制を整備すべく、委員会を組織した。類似学会の規程を参考にして、仮の規程案を作成しこれに基づいた申告フォームを作成し、第 66 回大会の発表申込にて運用した。
- (2) 日本人間工学会が 2020 年に改訂した「人を対象とする人間工学研究の倫理指針」について、国の指針との整合に関する確認と再改訂の必要性の検討を開始した。また、AI や XR の職場や教育環境への急速な取り込みを鑑み、関連する他学会の倫理に関する取り組みについて調査した。

3-15. 人間工学研究標準化推進委員会

{委員長:佐藤 洋}

人間工学に関する研究成果を社会へ普及させる一環として JIS および ISO 等の標準化活動の枠組みを活用し、人間工学研究の社会実装を促進する活動を実施する委員会として、今年度は以下の活動を実施した。

- (1) JES 会員やプロジェクトで ISO や JIS 等の標準になりそうな研究に対する標準化のための作業へのアドバイスによる支援および ISO や JIS への上程のための活動を推進した。
- (2) 委員会の立ち上げおよび支援内容の構築の準備を実施した。

3-16. 第 65 回大会担当

{担当:小林 大二}

2024 年 6 月 22 日~23 日の 2 日間にわたり、公立千歳科学技術大学にて、テーマとして「私たちと知能・自律型システムが共存する社会のために」を掲げた日本人間工学会第 65 回大会を対面(一部の企画セッションのみハイブリッド)にて開催した。対面にて参加した 405 名とオンラインでの参加者によって大会は盛会裏に終わった。懇親会には 139 名が参加した。また、会期前日には理事会が開催され、理事会後に開催した懇親会では役員の交流が深められた。

<開催概要>

- (1) 基調講演
佐治 友基氏 (BOLDLY 株式会社 代表取締役社長 兼 CEO)
「自動運転と社会実装」
- (2) 協賛 20 団体, 1 大学
- (3) セッション 46 件 (228 講演)
 - (ア) 企画セッション 18 件
 - (イ) 一般セッション 28 件
- (4) 企業展示 10 件

<参加者内訳>

参加者	事前受付	当日受付
正会員	188	8
準会員(学生)	29	0
賛助会員	15	0
非会員	69	18
機器展示関連	18	12
合計	367	38

[プロジェクト]

3-17.AMED プロジェクト

{担当:榎原 毅,大須賀 美恵子}

日本医療研究開発機構(AMED)によるヘルスケア社会実装基盤整備事業「メンタルヘルスに対するデジタルヘルス・テクノロジー予防介入ガイドライン」への運営協力を行った。デジタル・メンタルヘルスに関するエビデンスをレビューし、関連 8 学会が連携して指針を公表した(2025 年 3 月)。関連 8 学会の協議会への出席(PIE 部会長:大須賀美恵子, 2024/9 および 2025/2 の計 2 回),指針案へのコメント提出,JES65 回大会(北海道,2024/6/22-23)での企画シンポジウム「デジタルヘルステクノロジーの普及とヘルスケアの未来 -日本人間工学会が参画するエビデンス整備発信事業のコロキウム-」の開催などを行った。

指針は AMEDE-LIFE ヘルスケアナビ・ポータルサイト(<https://healthcare-service.amed.go.jp/>)および特設サイト(<https://delight.sanei.or.jp/>)にて公開されている。

3-18.厚労省科研プロジェクト

{担当:榎原 毅,鳥居塚 崇}

日本人間工学会(JES 代表として鳥居塚崇理事長が協議会座長)が中心となり,厚生労働科学研究費補助金(労働安全衛生総合研究事業)を得て「陸上貨物運送業を対象とした Minds 参照型腰痛予防対策ガイドラインの策定と予防対策の普及実装の推進」を推進した。関連4団体と連携してMinds 診療ガイドラインに準拠した「陸上貨物運送業の腰痛予防介入ガイドライン」の整備を行う。2024 年度は主要陸上貨物運送業 7 団体・行政(厚生労働省)・アカデミアが集うコンソーシアム協議会を組織し,2 回(2024/8/5, 2025/3/26)協議会を開催・意見交換を行った。事業上調査の実施(岩切・杜班),システムティックレビューの実施(谷・石井班),2025 年度に実施予定の介入プログラム案の検討(田中・榎原班,菅間・山田・山内班,瀬尾・平内班)を行った。

3-19.人間工学事典発刊プロジェクト

{委員長:鳥居塚 崇,副委員長:榎原 毅}

2005 年に丸善出版より発行された「人間工学の百科事典(大島正光監修)」は 20 年が経過している。今の時代に即した人間工学の「全体像」ならびに「展望」を広く社会へ伝えることを目的とした新しい学会公式の「人間工学事典」の発刊を目指し,出版担当者とミーティングを重ねて章立ての検討を行った。1 項目あたり見開き 2 枚,10 章 259 項目案を作成し,各章の編集担当の検討を行った。

3-20.ABW プロジェクト

{委員長:兵頭 啓一郎,副委員長:福住 伸一}

(期間:2024.6~2027.2)

(1) 2024 年度実績概要

今年度の事業として,ABWIに関する国際標準の原案のうち1件の技術報告書(TR)の開発,1件の国際標準(IS)の開発を行った。また,1件の国際標準(IS)の開発準備を行った。

1)ISO TR 9241-520 Ergonomics of human-system interaction — Part 520: Ergonomics aspect of Activity Based Working

すでに当該WG(ワーキンググループ)にて提案済みであるTRの開発を継続して進めた。当該ISO/TC 159/SC4にて公式CDを提案し,コメントを得た。その後コメントに対応し,年度末にはDTRをリリースできる状態にした。

2)ISO 9241-5xx Ergonomics of human-system interaction — Part 5xx: Ergonomics requirement for

Activity Based Working

ISIについては、すでに骨子を作成した標準案をWG内で議論し、年度末には当該TCに提案できる状態にした。

3)ISO 9241-5xx Ergonomics of human-system interaction — Part 5xx: Ergonomics requirement for Activity Based Working implementation

新規の1件について、今年度は規格の方向性を定めるための研究を行い、方向性を検討した。

JISについては、今年度は海外と日本の差異を検証し、JIS開発の方向性を定めた。

(2)2024 年度実績詳細

本事業では以下の実施方法によりABWの人間工学的要求事項を確立し、国際標準を提案した。

1)ABW委員会を運営した

本事業を行うにあたり、国内利害関係者の意見調整とこれに基づく各原案の作成を行う必要がある。そこで、一般社団法人 日本人間工学会傘下に“ABW委員会”を組織した。この委員会にて調査、検討、規格開発を行った。開発した標準については、ISO/TC 159/SC4国内対応委員会下にISO/TC 159/SC4/WG3国内対応委員会を設置し、当該国際委員会に提案した。さらに提案後の国際審議への対策をWG3国内対応委員会およびABW委員会にて検討し、対応した。

2) ABWに関する国内外の活動の調査、整理

ABWに関して、コロナ前、コロナ禍及び現状の調査、整理に付き、我が国の関係者との打ち合わせ、聞き取り、国内外の識者との打ち合わせにより行った。

3) ABW実施の効果を評価する指標をさらに調査した

ABWを適用した際の効果を評価するためのすでに判っている指標に加えさらなる指標を調査し、その調査結果を整理した。

4) ABWに関する技術報告書の開発を進めた

上述の調査、整理の結果を、すでに開発をはじめている技術報告書に反映させ、開発を進めた。

5) ISO/TC 159/SC 4("Ergonomics of human-system interaction")および傘下のWGにおける規格化を進めた。

上記 4)にて策定した技術報告書案を、当該委員会ISO/TC 159/SC4 ("Human and system interaction")にて開発を進めた。

6) ABWについて調査した結果から、ISO/TC 159/SC4にて標準策定提案をした

規格原案を、ISOにおけるNP及びその後の審議に基づく発行を目指すために、上述のABW委員会にて国内の識者と打ち合わせた。その結果を受けて、ISO/TC 159/SC 4での提案、及びその傘下のWG 3での実質的な審議を行った。規格原案を提案するにあたっては ISO TC 159/SC4総会を日本に招致し、開催した。特に日本で参加いただいたSC4メンバーに ABWを適用したオフィスの実例を見学頂き、人間工学的にどのような課題があるのか を実感頂くことができた。その結果 SC4内でもABWに関する人間工学的要求事項の提案に積極的な賛成を得られた。

7) JIS開発

ISO開発と並行して、我が国の実情に即したJISの開発のための調査を行った。

ISOの開発時に我が国のABWを適用しているオフィス見学を行った。その際に当該オフィスの設計者、運営者などからABW適用の進め方、課題などを聞き取った。その結果海外(EU, US)でのABWの実施状況とは異なる我が国ならではのオフィス、働き方に関する仮説が浮かび上がってきた。具体的には1)通勤事情を勘案した在宅勤務の増加、2)一方で従前からの働き方(あいまいなJob descriptionなど)により自由な働き方を制限する動き、3)依然として我が国の企業数の多くを占める中小企業では、旧態依然とした働き方をしている可能性が高い。今後、これらの仮説を検証し、JIS開発の際の参考とする。

3-21.子ども ICT プロジェクト

{委員長:柴田 隆史,副委員長:岡田 衛}

- (1) 学校において安全で快適に ICT 機器を利用できるように,児童生徒や学校関係者に分かりやすく実用的な情報を伝えることを継続的に検討した.また,これまでに作成したウェブサイトを活用して,学校教員などに委員会活動を紹介した.
- (2) 子どもの ICT 機器活用に関する人間工学課題について情報交換し,第 65 回大会においてシンポジウムを開催して学校における課題と対策について議論した.

4.支部活動

4-1.北海道支部

{支部長:小林 大二}

(1) 支部役員会

日時: 2024年9月17日(火)

場所: オンライン

議題: 第9期 北海道支部役員紹介, 2023年度 事業報告, 2023年度 決算報告, 2024年度 事業報告および計画, 日本人間工学会第65回大会報告・収支報告, 2024年度 予算執行計画, その他

(2) 全国大会主催

大会長: 小林大二(公立千歳科学技術大学)

日時: 2024年6月22日(土)~23日(日)

場所: 公立千歳科学技術大学 本部棟

(3) 日本人間工学会北海道支部総会・セミナー

日時: 2024年11月16日(土)

場所: 小樽商科大学 小樽キャンパス 5号館470CL教室 および オンライン

講師: 水本 徹 氏, 市岡 聖菜 氏(株式会社島津製作所), 佐々木 誠司 氏(株式会社フレンセル), 平沢 尚毅 先生(小樽商科大学)

4-2.東北支部

{支部長:高橋 信}

(1) 支部役員会

1) 第1回役員会:

・日時: 2025年3月29日(土) 13:00~13:30

・場所: 東北大学青葉山キャンパス(仙台市)

・議題: 理事会報告, 次回研究会, その他

(2) 支部研究会

1) 工場見学会(※日本経営工学会東北・北海道支部との共催):

・テーマ: ものづくり現場における人間工学 Part VIII (工場見学会)

・企画: 山口俊憲(山形県立産業技術短期大学校)・本多薫(山形大学)

・日時: 2024年9月2日(月) 9:30~16:30

・見学場所: 株式会社 山本製作所(東根市), 山形カシオ株式会社(東根市)

・趣旨: 主たるテーマをものづくり現場とし, 地域の工場見学と意見交換会を通して, 様々な経験を持つ研究者や実務家等と情報共有を図り, ものづくり現場において人間工学や経営工学がどのように寄与できるか, また, その知見を他産業にどう活用していけるかについて意見交換を行えればと考えております。

2) 第1回研究会(※日本経営工学会東北・北海道支部との共催):

・テーマ: 東北地域の現場の最前線から考える経営工学・人間工学セミナー

・企画: 山口俊憲(山形県立産業技術短期大学校)・本多薫(山形大学)

・日時: 2024年12月21日(土) 14:00~17:30

・見学場所: 山形テルサ(山形市) (オンラインによるハイブリット開催)

・趣旨: 「変動社会に対応した現場改善は人の役割の更新, 本質は学びの変革に」人口減少社会において, ものづくり現場では省人化が求められている。しかし, 本当に求められているのは省人化でしょうか。従来の方法の延長線上にないVUCA時代と言われる現代社会で必要なのは”人の役割を変えること”, そして, そのために必要な人材育成を行うことで, 我々に

は“学びの変革”が求められているのではないのでしょうか。今回の研究会では、地域のものづくり現場の最前線で活躍する技術者が働きながら学校で学び、企業の課題解決に取り組んでいる事例について紹介し、経営工学・人間工学分野が社会人のリスクリング・リカレント教育にどう寄与できるかを考える。

・趣旨説明と講師紹介:

「変動社会に対応した現場改善は人の役割を変えることであり、本質は学びの変革にある」

山口俊憲(山形県立産業技術短期大学校)

・講演1: 溶接作業のロボット化を進めるためのフレームワークの確立と他工程への適用

～溶接作業者が持つ暗黙知化された技術の形式知化～

講師 村山 穂乃果 氏(京浜パネル工業株式会社・山形産業技術短大 社会人学生)

・講演2: 成功と失敗をデータベース化する持続可能な生産改善のアプローチ

～作業者の身体的負荷を軽減するからくり装置開発を例に～

講師 横倉 清志 氏(株式会社山本製作所・山形産業技術短大 社会人学生)

2)第2回研究会:

・テーマ:Learning from All Operations(全てのオペレーションからの学習)の実現に向けて -Part 2-

・企画:狩川大輔(東北大学)・高橋信(東北大学)

・日時:2025年3月29日(土)14:00~17:00

・場所:東北大学青葉山キャンパス(仙台市)(オンラインによるハイブリット開催)

・趣旨:複雑システムのさらなる安全性向上のためには、個人や組織による自他の経験からのより良い学びの実現が欠かせません。今回の人間工学会東北支部研究会は、昨年度に引き続き、「Learning from All Operations(全てのオペレーションからの学習)の実現に向けて」をテーマに開催致します。昨年度の学術(心理学)分野、航空分野からのご講演に続き、今年度は鉄道分野と建設業からお二人の講師をお招きし、事故や重大インシデントに限らない、日常的な実践における自他の経験からより良く学ぶための最新の取り組みについてご紹介頂きます。そして、それを踏まえて、各分野におけるより良い学びの実現に向けた様々な課題や工夫について意見交換すると共に、人間工学ができる貢献について考える機会にしたいと思います。

・趣旨説明と講師紹介 狩川大輔(東北大学)

・講演1: JR 東日本における「『うまくいっていること』にも着目する取組み

講師 楠神 健 氏(JR 東日本研究開発センター), 兼子 貴憲 氏(JR 東日本研究開発センター)

・講演2:レジリエンス能力を高め安全衛生と生産性の向上を目指す「新ヒヤリ・グッジョブ報告」の活用

講師 田村 和佳子 氏(一般社団法人 仮設工業会)

4-3.関東支部

{支部長:松田 礼}

(1) 第54回関東支部大会・第30回卒業研究発表会

1)開催日:2024年12月7日(土)

2)会場:産業技術総合研究所 臨海副都心センター(東京都江東区)

3)大会長:持丸正明 氏(産業技術総合研究所)

4)参加者 145名(正会員:47,非会員:13,学生:85)

5)演題数件(一般演題6セッション22件,卒業研究8セッション25件,企画セッション2件)

6)特別講演:1件「デジタル技術を通じた価値創出に向けて:サービス工学研究とその展開」

講師 渡辺健太郎 氏(産業技術総合研究所 人間拡張研究センター)

(2)支部委員会,支部総会

1)開催日:2024年12月7日(土)

2)場所:産総研臨海副都心センター

(3)見学会(含む講演会)

- 1)日時:2025年3月4日(火) 13:30~16:30
 - 2)場所:須賀工業株式会社 本社ビル(東京都江東区)
 - 3)講演:健康になる環境デザイン/都市型中小規模オフィスビルにおけるセントラル空調 ZEB モデル
 - 4)講師:山崎千夏 氏 他2名(須賀工業株式会社東京支社)
- (4)ニュースレターの発行:
 メーリングリストにより支部大会・総会の案内,見学会・講演会の案内を発行

4-4. 東海支部

{支部長:横山 清子}

- (1) 日本人間工学会東海支部総会開催
 開催日時: 2024年5月25日(土) 15:00-15:30
 開催場所: 名古屋市立大学ミッドタウン名駅サテライト(対面)
 講演会:「Success Stories, New Challenges and Opportunities in Ergonomics」
 テヘラン医科大学教授・名古屋市立大学客員教授 Adel Mazloumi先生
- (2) 支部役員会

第1回支部役員会	2024年5月25日(土)	14:00-14:45	対面
第2回支部役員会	2024年7月6日(土)	11:00-12:00	オンライン(Zoom)
第3回支部役員会	2024年10月8日(火)	19:00-20:00	オンライン(Zoom)
第4回支部役員会	2025年3月10日(月)	13:00-14:30	オンライン(Zoom)
- (3) 日本人間工学会東海支部 2024 年研究大会の開催
 開催日: 2024年11月2日(土)
 開催場所: 愛知工業大学(豊田市)
 大会長: 愛知工業大学 情報科学部 松河 剛司 先生
 特別講演:「生成AIを支える技術」
 演者: 愛知工業大学 教授 徳久 良子 先生
 概要: 一般講演26演題,参加者74名
 企画セッション:
 - (1)人間工学専門家資格の紹介
 講師:松岡 敏生 先生(三重県工業研究所)
 - (2)グッドプラクティスデータベースの紹介
 講師: 藤掛 和広 先生 (中京大学)
- (4) 人間工学測定技法講座の開催
 講演テーマ:査読者から見たおさえてほしい研究デザインの基本
 講師: 朝日大学 保健医療学部健康スポーツ科学科 教授 庄司 直人 先生
 開催日時:2024年12月3日(火) 16:00~17:30
 開催方法:Zoom を利用したオンライン講座
 参加者:42名

4-5. 関西支部

{支部長:有馬 正和}

- (1)企画・行事等

- 1)第1回人間工学異分野連携交流サロン
 日程:2024年7月30日(火)
 会場:兵庫県立工業技術センター
 テーマ:「医療リハビリ(生体計測)」話題提供講演2件,勉強会講義・実習各1件,座談会
 参加者:43名
 - 2)第2回人間工学異分野連携交流サロン
 日程:2024年10月2日(水) 会場:兵庫県立工業技術センター
 テーマ:「3Dプリンター」講演4件,パネル展示,交流会 参加者:20名
 - 3)関西支部大会
 日程:2024年11月30日(土) 会場:摂南大学 寝屋川キャンパス
 大会長:奥野 竜平教授(摂南大学) 参加者:90名 発表件数:42件(特別講演2件,OS2件,一般講演38件)
 - 4)第1回見学会
 日程:2025年1月24日(金)
 見学先:兵庫県立福祉のまちづくり研究所・川崎重工 明石工場
 内容:福祉のまちづくり研究所では,組織概要と研究開発事例(フレイル評価椅子,車いす使用者向け経路探索アプリ,小児用筋電義手等)の紹介があり,研究開発担当者から成果物についての説明があった.川崎重工明石工場では,組織概要の説明後にモーターサイクル,ガスタービン,ロボットの組み立て現場を見学した.
 参加者:12名
 - 5)第3回人間工学異分野連携交流サロン
 日程:2025年2月21日(金) 会場:兵庫県立工業技術センター
 テーマ:「デジタルヒューマン」講演3件,パネルディスカッション,座談会,企業・大学展示7件 参加者:約70名
- (2)会議・総会等
- 1)第1回幹事会
 日程:2024年4月17日(水)18:00~20:15 会場:Zoomによるオンライン開催 参加者:13名
 - 2)第2回幹事会・第1回支部大会実行委員会
 日程:2024年7月16日(火)17:00~19:30 会場:摂南大学 寝屋川キャンパス 参加者:11名
 - 3)第2回支部大会実行委員会
 日程:2024年10月3日(木)18:00~19:30 会場:Zoomによるオンライン開催
 - 4)第1回評議員会役員会合同会議(関西支部大会と併催)
 日程:2024年11月30日(土)12:10~13:10 会場:摂南大学対面開催+Zoomによるオンライン開催 参加者:28名
 - 5)第3回幹事会(メール審議)
 日程:2024年12月4日(水)~2024年12月8日(月)
 議事:優秀発表賞の選出 方法:メールによる意見聴取 回答数:8件
 - 6)第1回評議員会(メール審議)
 日程:2024年12月9日(月)~2024年12月18日(水)
 議事:優秀発表賞の承認 方法:メールによる意見聴取 回答数:21件
 - 7)支部臨時総会(メール審議)
 日程:2024年12月25日(水)~2025年1月16日(水)
 議事:支部規則・選挙細則の改定 方法:メールによる意見聴取 回答数:47件
 - 8)2024年度評議員選挙
 日程:2024年12月25日(水)~2025年1月16日(水)
 方法:Googleフォームによる電子投票および郵送による紙面投票 回答数:71件
 - 9)第2回評議員会(メール審議)
 日程:2025年1月30日(木)~2025年2月6日(木)
 議事:評議員選挙結果の承認 方法:メールによる意見聴取 回答数:23件
 - 10)第4回幹事会

日程:2025年2月17日(月)18:00~20:00 会場:Zoomによるオンライン開催 参加者:13名

11)第2回評議員会役員会合同会議(メール審議)

日程:2025年3月2日(日)~2025年3月10日(月)

議事:2024年度事業報告/収支報告,2025年度事業計画/予算計画の承認

方法:メールによる意見聴取 回答数:21件

12)2024年度支部通常総会(メール審議)

日程:2025年3月15日(土)~2025年3月28日(金)

議事:2024年度事業報告/収支報告,2025年度事業計画/予算計画の承認

方法:メールによる意見聴取 回答数:52件(Googleフォーム)・15件(メール)

13)人間工学高校生研究発表会打合せ会議

日程:2025年3月26日(水)17:30~20:00

会場:大阪公立大学 I-site なんば+Zoomによるオンライン併催 参加者:11名

4-6.中国・四国支部

{支部長:石原 恵子}

(1)支部理事会開催

第1回:2024年7月27日,オンライン開催(2023年度の事業最終報告と2024年度支部事業計画,支部大会のスケジュール等を討議)

第2回:2024年11月30日11:50~12:50,周南市立図書館3階交流室1にて支部大会のときに対面で開催(2024年度支部優秀賞選考について,2025年度支部大会の開催校と,開催準備を協議決定)

第3回:2024年12月13日メール開催(支部優秀賞について討議)

第4回:2025年1月16日18:00-18:30,オンライン開催(支部優秀賞について再討議,決定)

第5回:2025年3月31日17:30-18:30,オンライン開催(2024年度決算,支部表彰内規について討議,特別講演会開催を承認)

(2)支部代議員会開催

2024年11月30日13:00~13:10,周南市立図書館3階交流室1にて,支部大会の時に開催

(3)支部総会開催

2024年11月30日13:10~13:20,周南市立図書館3階交流室1にて,支部大会の時に開催

(4)2024年度第55回日本人間工学会中国・四国支部大会の開催

2024年11月30日(土)

開催場所:徳山デッキD1,6階セミナールーム(周南市銀座一丁目31番地)および周南市立徳山駅前図書館3階交流室1(周南市御幸通2丁目28番2)にて対面で開催

大会長:土屋 敏夫 先生(周南公立大学)

特別公演:「仮想現実(VR)における人間の能力拡張について」演者:周南公立大学情報科学部長 野村 典文 先生

支部会員への情報提供として講演2件:

「編集委員会による広報活動」宇野直士先生(日本人間工学会編集委員会幹事,山口東京理科大学)

「人間工学専門家資格制度と資格取得のメリットについて」榎原毅先生,仲谷尚郁先生,○松岡敏生先生(人間工学専門家認定機構)

一般発表:16件,大会参加者30名(一般22名,学生8名)

(5)企業見学会開催:

第1回:2025年2月24日および3月20日,マツダ株式会社人間中心の自動車開発・衝突開発の説明,実験場見学,工場のエルゴ対策を見学.参加者数2月18名,3月13名.

4-7.九州・沖縄支部

{支部長:庄司 卓郎}

(2)九州・沖縄支部第45回大会

1)月日:2024年11月30日(土)

2)会場:長崎大学坂本キャンパス ポンペ会館(長崎県長崎市坂本1-12-4)

3)大会長:中島弘貴(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)

4)発表演題数:特別講演1件,企画セッション2件,一般講演8件

5)参加者:24名

6)特別講演

・疫学研究を通じた運動器の健康

青柳潔(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科公衆衛生学 教授)

7)企画セッション

・日本人間工学会編集委員会企画-人間工学誌の魅力と「投稿したい,読みたいジャーナルを目指す」ために-

近井学(日本人間工学会誌 副委員長 国立研究開発法人産業技術総合研究所 人間情報インタラクション研究部門),村木

里志(日本人間工学会誌 委員長 九州大学大学院芸術工学研究院 人間生活デザイン部門)

・認定人間工学専門資格制度の紹介

榎原毅(人間工学専門家認定機構 機構長 産業医科大学 産業生態科学研究所 人間工学研究室)

8)表彰

・最優秀発表賞

「パラアスリートの動作再現を目的としたシットスキーの構造設計に関する研究」

嶋田悠二(九州大学大学院芸術工学府)

・優秀発表賞(発表順)

「コンフォート指向の枕の開発におけるAIによる制御技術の開発」

佐藤光河(大分工業高等専門学校 情報工学科)

5.研究部会活動

5-1.ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長:吉武 良治}

(1)活動主テーマ

- 1) 今あるデータを活用した人間工学
- 2) 研究部会活動およびビッグデータ活用ノウハウ集
- 3) 「+人間工学」活動の開始

(2)主な活動内容と手段・方法

- 1) 年間を通じて幹事間の情報交流を電子メールで行う。
主にイベントの開催検討のため、電子メールでの打ち合わせ・連絡を複数回行った。
- 2) ノウハウ集の基盤となるシステムについて、より拡充・活用しやすいよう、再検討していく。
進捗なし。
- 3) 日本人間工学会の年次大会にてシンポジウムを企画する。
企画できなかった。
- 4) 講演会・談話会等をオンラインにて開催する。学会員外・研究部会員外は参加費の有料化を検討する。
以下の講演会を開催した。

4-1) 第4回ビッグデータ人間工学講演会(2024/04/23)

講演 Transportation safety meets big data: 実践的な人間特性理解に使えるナチュラルスティックな運転行動データの紹介

講師 近藤 崇之 氏(早稲田大学人間総合研究センター)

場所 オンライン+現地(芝浦工業大学:学生用)

参加者 66名(関係者・学生含む)

4-2) 第5回ビッグデータ人間工学講演会(2024/12/27)

講演 人間拡張技術で解き明かすスキル獲得のカギ:計測・解析・介入によるデータ駆動型アプローチ

講師 村井昭彦 氏(産業技術総合研究所 人間拡張研究センター 共創場デザイン研究チーム)

場所 オンライン

参加者 33名

なお、参加費の有料化については実現できなかった。

また、数件の講演会候補を企画・検討中である。

(3)成果

- 1) 年2回の講演会を開催した。講演会参加者からの研究部会参加の要望が増えてきた(今年度11名)。
- 2) 人間工学研究者による汎用データの活用への注目度が高まってきたことが確認できた。
- 3) 非人間工学研究者における汎用データを用いた人間工学的な解析需要が確認できた。

5-2.PIE 研究部会

{部会長:大須賀 美恵子}

(1)活動目的

本部会は2020年度に新体制で発足して以来、5年目を迎える。最終年度は前年度に引継ぎ、昨今の生体計測を取り巻く課題を抽出し啓発活動に尽力するとともに、次年度以降の部会の在り方について議論し案を策定する。ウェアラブルデバイスやスマートフォン内蔵カメラを利用した生理計測・身体活計測が可能となり、ヘルステックビジネスの重要な要素となって

いる。しかし、これらのデバイスやアプリの多くは、生データを提供せず、計測不備に対する対応やデータの定量化手法について公開していない。また、指標変化の解釈も実験室内の限定された条件で得られたエビデンスにのみ基づいており、実生活に伴う不備や課題が検討されているとはいえないケースもある。これらの問題に対し、従来の適切な生理心理計測の手法および人間工学分野に適用する際の正しい知識や方法論を提供し、課題を明確にすることも部会の重要な役割である。また、研究と実用(ビジネス)のギャップを埋め実現可能な提案をするには、アカデミアだけでなく、デバイス開発者やエンジニア、データサイエンティスト、ユーザなど多様なメンバーが参画できる場の提供を模索する。

(2)方法・手段

- 1) 本学会の全国大会、支部大会のいずれかにおいて、部会の企画セッションを行う。多様な人の参画を得るために、可能な限りハイブリッド開催をめざす。本学会の第 65 回大会では、「実場面で生理心理計測を用いて「効果を測る」難しさ」と題した企画セッションを開催する。
- 2) 学会間交流をさらに進める。具体的には、第 63 回日本生体医工学会大会において、シンポジウム「日常・産業場面におけるウェアラブル生体計測デバイスの活用と課題～いつでもどこでもあなただけをめざして～(3)」を開催する。また、本学会の第 65 回大会では、日本バーチャルリアリティ学会との連携セッションを企画する。
- 3) AMED 予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業「メンタルヘルスに対するデジタルヘルス・テクノロジー予防介入ガイドライン」統括運営グループに日本人間工学会の代表として参加し、リエゾン役を務める。本学会の第 65 回大会に向けて、部会および学会員の意見をくみ上げて、関連セッションでの話題提供につなげる。
- 4) ワークショップや講習会などの対面イベント(有償も含む)については、部会単独での実施は見送り、本部企画に協力するなどの方法を模索する。
- 5) 部会運営ミーティングあるいはメーリングリスト利用の議論により、次年度以降に部会の在り方について議論し、新体制で継続、あるいは形を変えてミッションに取り組むことを前向きに検討する。

(3)成果

- 1) 第 65 回全国大会(6 月 22 日、公立千歳科学技術大学)において、講演と議論を行うハイブリッドセッション「実場面で生理心理計測を用いて『効果を測る』難しさ」を開催し 55 名の参加があった。鉄道現場で生理計測専門家と乗務員などが協力して仮眠室改良に取り組んだ事例(講演者:中川千鶴氏, 鉄道総研)と、生体計測を応用して重大事故ゼロを目指したサービス提供の事例(講演者:田中毅氏, (株)日立製作所)についての 2 講演を受け、前部会長の三宅晋司先生と現部会長の 大須賀の指定討論とフロア・ネットを交えた討論を行った。
IEA2024(8 月 28 日、韓国済州島)において、「New Trends in the Application of Psychophysiological Measurements in Ergonomics」と題したオーガナイズドセッションを実施し、50 名近い参加者を得て、6 題の発表(大阪工大、ヤンマー、東京大学、青山学院大学、島津製作所、関西大学)と議論を行った。また、2024 年度日本人間工学会関西支部大会(11 月 30 日、摂南大学)において、「実場面で利用できるウェアラブル・ウェアレス生体計測手法への期待～様々なデバイス・サービスを試用して活用法を考える」と題したワークショップを実施し、企業の協力も得て、各種ウェアラブルセンサ、web カメラを用いた非接触計測のデモ・体験の機会を設け、その場でノイズや計測不備の対処などの課題について議論した。
- 2) 第 63 回 日本生体医工学会大会(5 月 25 日、鹿児島)において、昨年度に引き続き「日常・産業場面におけるウェアラブル生体計測デバイスの活用と課題～いつでもどこでもあなただけをめざして～(3)」と題して、オーガナイズドセッションを開催した。榎原毅先生(産業医科大学)に職場の well-being 向上に資する生体計測への期待について、丸山崇先生(産業医科大学)にウェアラブルデバイスを用いた長時間計測データから生体リズムや作業負荷を推測する試みについて、鎌倉快之先生(大阪工業大学)にカメラを用いた非接触生体情報計測の紹介とその問題点を論じていただき、企画者・会場参加者を交えて活発な議論を行った。ハイブリッド開催であったが、現地でも 100 名を超える参加があり関心の高さがうかがえた。また、本学会第 65 回大会において、日本バーチャルリアリティ学会との連携セッション「バーチャルリアリティと人間工学」を開催し、VR コンテンツ制作における人間工学ガイダンス(河合隆史, 早稲田大学)、バーチャル共身体化の心理・運動特性(北崎充晃, 豊橋技科大)、学校教育における VR 活用(柴田隆史, 東海大学)、バーチャルオフィスの作業員への心理生理影響(小林大二, 公立千歳科学技術大学)の 4 題の発表を得て、バーチャルリアリティ分野における人間工学の課題や活用について議論した。

- 3) AMED 予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業「メンタルヘルスに対するデジタルヘルス・テクノロジー予防介入ガイドライン」統括運営グループに日本人間工学会の代表として部会長の大須賀が参画し、ヘルスクエスチョンおよびガイドライン策定に協力し、統括運営グループ会合(2025.2.19)に出席して議論に参加した。ガイドライン案については本学会員にパブリックコメントを求めた。
- 4) 日本人間工学会企業活動推進委員会主催のセミナー(非会員は有料)において、部会長の大須賀が「人を対象とした研究の倫理的配慮の基本について学ぶ」と題した講演を行った。部会終了に当たり、部会長の講演を大阪工業大学ロボティクス&デザイン工学部システムデザイン工学科主催の退職記念講演会(無料)を共催する形で実施した(3月15日、大阪工大梅田キャンパス+オンライン+オンデマンド動画配信)。
- 5) メーリングリストを活用し、企画セッション案内、企画内容に関する意見収集、IEA2024のOSでの発表の公募を行った。また、部会終了後の活動についてもアンケートにより意見を収集し内容・運用について検討している。本研究部会の企画セッションの一部については、日本人間工学誌に学術集会開催報告を投稿するとともに、学会員以外にも広く知っていただくための一環として、部会費を活用してJ-STAGEに掲載した。
- 6) 新たに8名の部会員数が入会し、会員数は113名となった。(2025年3月31日現在、日本人間工学会非会員69名)※メール不通による退会2名

5-3.科学コミュニケーション部会

{部会長:山田 泰行}

(1)2024 年度研究部会テーマ

- 1) 人間工学における科学コミュニケーションのコンセンサス形成
- 2) 人間工学の社会実装に向けた科学コミュニケーション企画の推進
- 3) 人間工学の研究成果を効果的に社会発信していくための方策や指針の検討

(2)活動内容(手段・方法)

1) 部会総説論文の投稿

科学コミュニケーションの歴史、定義、形態、事例、実践時の留意点、コンピテンシー、今後の課題を検討し、その成果を部会総説として人間工学誌に投稿した。

2) 日本人間工学会第66回大会のエントリー

科学コミュニケーションの、形態、事例、今後の課題を学会発表抄録に要約し、日本人間工学会第66回大会にエントリーした。

(3) 成果と展望

- 1) 人間工学における科学コミュニケーションのコンセンサス形成に向けて、部会の議論を学会発表と総説論文にまとめることができた。
- 2) 本部会の成果が人間工学領域の科学コミュニケーションの発展に寄与することを期待する。

5-4.感性情報処理・官能評価部会

{部会長:石原 正規}

(1)活動目的

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から応用まで多角的に取り上げ、研究者どうしの情報交換と研究の活性化および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者の拡大、育成をはかる。

(1) 手段・方法

- 1) 第33回システム大会[2025年3月14(金),15日(土)]の感性・官能セッションへの参加・発表(詳細はシステム大会部会より報告)
- 2) 幹事会,幹事間のメール連絡等による,部会活動について議論,情報共有,審議
- 3) 学会誌「人間工学」への論文投稿の準備

(2) 成果及び展望

- 1) 第33回システム大会に参加し,若手研究者による発表(3件)を組織,支援した.また,大会参加者との交流を通し,部会活動のネットワークを広げた.
- 2) 講演会/研究会の開催,関東支部大会への参加等について,今後の活動可能性を模索した.また,部会ホームページの更新を行なった.
- 3) 2025年度中に,部会幹事メンバーによる研究を学会誌「人間工学」に投稿する予定である.

今後も引き続き,講演会/研究会を開催し,知識や経験の情報共有を通しての社会貢献につなげたい.また,若手の研究や,萌芽的研究に関する発表・(指導的な指摘も含めた)議論ができる場を提供し,学会誌への論文投稿につなげていきたい.

5-5.衣服人間工学部会

{部会長:土肥 麻佐子}

(1)活動目的とテーマ

人と衣服と環境の関連に関わる諸問題について基礎から応用まで多角的に取り上げ,研究者どうしの情報交換と研究の活性化および研究内容の深化に資する機会を提供するとともに,この領域の研究者の拡大,育成をはかることを目的とする.2012年度より「グリーンファッションに関する研究」をテーマにした活動を継続している.具体的には,衣服のサプライチェーンの側面より,環境に配慮しかつおしゃれな着装的あり方,廃棄ゼロを目指した衣服の構造・デザイン,衣服材料の使い方,衣服のリサイクル,フェアトレードなど,SDGs達成への貢献を視野に入れた研究活動,啓蒙活動に努めている.

(2)活動内容

1) 研究例会

衣服の側面より持続可能な社会について考えるための話題提供と知識の啓蒙を目的に,埼玉県内でSDG'sを念頭に,伝統に裏付けられた新しい価値の創造に取り組んでいच्छる,プリーツ加工工場,学校制服の工場,武州正藍染の工場の3件を見学する研究例会を開催した

第1回例会

- ・開催日:2025年2月28日(金)9:10~17:50
- ・見学会のテーマ:伝統に裏付けられた新しい価値の創造
- ・参加者:20名
- ・講演・見学内容

一株式会社生田プリーツ(プリーツ加工・アパレル縫製工場)

素材の熱可塑性を利用して生地折り目をつける加工方法であるプリーツ加工の技術面からの基礎知識および加工を依頼するための基礎知識について解説していただいた.プリーツ加工にはハンドプリーツとマシンプリーツがある.伝統をいかした新しい価値の創造の一つとして型紙を用いた複雑な形のプリーツの開発も行われていた.その後プリーツ加工の生産現場を見学した.型紙を用いたハンドプリーツを体験する時間もあり,縫製部門もありアパレル生産の流れも理解することができた.

-光和衣料株式会社(学校制服のコンサルティング&製造工場)

近年の学校制服のコンサルティングの実例を示しながら、近年の新しい価値として制服のジェンダーレス化の実情、また環境に配慮し制服を再利用するための取り組みとして、回収した制服を修整してサブスクリプション化する制度の現状などについて解説していただいた。その後制服の製造工場を見学し、制服ならではの生産手法などについて理解を深めることができた。

-小島染色工業株式(剣道着生地など藍染織物量産工場 化学繊維の染織)

伝統的な藍染手法を受け継ぎながら染織の量産、糸染めから織りまでの一環生産体制を整えている手法について解説していただくとともに、染織工場を見学した。武州正藍染は日本の剣道着生地の大半のシェアをもつ。藍染染織の量産体制をもつ工場は国内で唯一の存在である。他に付帯加工を施した化学繊維の染織についても解説していただき生産現場を見学した。

2) 役員会

Zoomによる役員会を3回開催した。他に役員会に準じたメール会議および見学会の企画担当者間での打合せを月1回のペースで行った。

- ・ 第1回役員会:2024年7月7日(日)
- ・ 第2回役員会:2024年7月28日(日)
- ・ 第3回役員会:2024年10月16日(日)

(3) 成果と展望

昨年度に引き続き対面での見学会を実施した。生産者や見学者間で対話しながら情報を共有することで理解を深めることができた。見学会の参加者より、正会員とオブザーバ会員(学会員ではないが衣服人間工学部会の活動に賛同して下さる会員)の計4名を新たに迎えることができたことも成果の一つである。次年度はグリーンファッションをテーマにしたオンライン公開講演会と対面での見学会の両輪での活動を行いたいと考えている。

5-6. 医療労働関連 MSDs 研究部会

{部会長:松崎 一平}

(1) 活動目的とテーマ

多くの医療従事者が痛み=筋骨格系障害(MSDs)を我慢しながら働いている現状がある。本研究部会は、「すべての医療従事者を守る快適な労働環境をつくる」ことをパーパスに掲げ設立された。ステークホルダ関与、システムズアプローチ、バックキャスト等、IEAの改訂コア・コンピテンシーを意識し、医療従事者、学会員、企業の方々と活動を推進している。

(2) 手段・方法

- 1) 医療労働関連 MSDs 予防のためのツール・教材の検討・開発
- 2) 医療労働関連 MSDs に関する教育機会の提供(研究会の開催)
- 3) 関連学会・研究部会などとの共同企画の実施および連携
- 4) 医療労働関連 MSDs 軽減のグッドプラクティス・機器情報の収集と発信
- 5) その他、本研究部会趣旨に必要と思われる諸活動の実施

(3) 成果

昨年に続き、医療労働に関する話題提供と議論を目的とした一般公開の研究会「医療 MSDs 懇話会」を開催し、海外の動向も含め情報共有・活発な議論を行った。研究部会ホームページ上で、日本人間工学会の会員に人間工学(学術的・技術的知見、歴史、課題、学習方法)をわかりやすく解説いただく企画として、2024年1月に研究部会員を対象とした医療労働関連 MSDs 研究部会の今後の取り組み「医療と私の人間工学 100Tips」を開始し、現在 Tip11 まで掲載している。

2024 年度は特に,様々な内部組織・外部団体とのジョイントシンポジウム・共催セミナーを企画し開催した。

1) 第5回 医療 MSDs 懇話会

- ・開催日:2024 年 5 月 9 日(木) 18:00~19:30 zoom による開催
- ・座長・趣旨説明 常見 麻芙(山下病院), 斎藤 真(三重県立看護大学)
- ・話題提供 1 藤田 亜紀子(桃山診療所)
- ・演題: 医療・介護従事者だからこそ必要な心身のセルフケア
- ・話題提供 2 谷川 みほ(社会福祉法人海光会)
- ・演題: 移乗介助から考える人への投資とは
- ・参加者:本研究部会員と一般 43 名
- ・概要: 産業保健人間工学会, 日本産業衛生学会作業関連性運動器障害研究会, アシストスーツ協会様の協賛で43名の方々に参加頂き,「心身のセルフケアと移乗介助から考える人的資本投資について学ぶ」をテーマに話題提供が行われ活発な議論が行われた。詳細は日本人間工学会誌 2024, Vol 60, No5, p327に, 学術集会開催報告として掲載。

2) 日本人間工学会第65回大会シンポジウム

- ・開催日:2024 年 6 月 23 日(日) 14:20~15:50 公立千歳科学技術大学
- ・オーガナイザー 松崎一平(山下病院), 司会 斎藤 真(三重県立看護大学)
- ・講演 1 斎藤 真(三重県立看護大学)
- ・演題: 医療労働と人間工学
- ・講演 2 川平 洋(自治医科大学)
- ・演題: 外科労働における MSDs 課題と RIAS (Robotic, intelligent and autonomous systems)の未来
- ・講演 3 松崎 一平(山下病院)
- ・演題: 消化器内科領域における RIAS の現状と未来
- ・講演 4 谷 直道(産業医科大学)
- ・演題: ヘルスケアワーカー, 特にコ・メディカル職の MSDs に焦点をあてた未来の働き方
- ・概要: 「医療労働の課題から, ヒトと知能・自律型システムの共存を考えるワークショップ」をテーマに, 外科医, 消化器内科医, 理学療法士から異なる視点の AI とロボットなど自立型システムの医療現場の現状とあるべき未来像が紹介され議論が行われた。

3) 第1回 医療労働関連 MSDs 研究部会 ワーク・アーゴノミクス研究部会 共催セミナー

- ・開催日:2024 年 9 月 4 日(水) 17:30~19:30 zoom による開催
- ・司会 井出 有紀子(NEC, ワーク・アーゴノミクス研究部会)
- ・趣旨説明 松崎 一平(山下病院)
- ・演題: 外来医師・看護師業務の現状
- ・講演 1 吉武 良治(芝浦工業大学)
- ・演題: 情報機器作業の人間工学 ~作業環境管理と作業管理を中心に~
- ・講演 2 深津 善之(オカムラ株式会社)
- ・演題: オカムラの机と椅子
- ・参加者:本研究部会員と一般 55 名
- ・概要: ワーク・アーゴノミクス研究部会様との共催セミナー「外来・ベッドサイドの医療従事者の働き方改革を考える会」が, 産業保健人間工学会, 日本産業衛生学会作業関連性運動器障害研究会様の協賛で55名の方々に参加頂き開催された。第1回のテーマはデスクワークの環境調整と題し開催された。開催報告は人間工学 2024, Vol 60, No6, p361,362に掲載。

4) 第86回日本臨床外科学会学術集会 特別企画14「日本人間工学会医療労働関連MSDs研究部会」ジョイントシンポジウムー外科医のためのエルゴノミクス:快適性と効率の追求ー

・開催日:2024年11月22日(金)8:30~10:00 宇都宮市にて開催

・司会 榎原 毅 先生(産業医科大学), 川平 洋先生(自治医科大学メディカルシミュレーションセンター)

講演

・SP14-1 医師の働き方改革開始後の現状と課題について

・加藤 正嗣(厚生労働省 医政局医事課/労働基準局労働条件政策課)

・SP14-2 人間工学によるパフォーマンスと快適性のデザイン

・下村 義弘(国立大学法人千葉大学)

・SP14-3 日本人間工学会および日本消化器内視鏡学会におけるMSDs対策啓発の現状

・松崎 一平(医療法人山下病院)

・SP14-4 医療機器メーカーが考えるドクターの疲労軽減を目指すデザインアプローチー外科 デバイスのエルゴノミクスデザインを導き出すUX検討の紹介ー

・野原 剛(オリンパス株式会社)

・SP14-5 外科におけるジェンダード・イノベーション

・河野 恵美子(大阪医科大学 一般・消化器外科)

・SP14-6 外科医のためのエルゴノミクスー長時間手術を行う外科医,肝臓胆外科医の立場から

・笹沼 英紀(自治医科大学 消化器一般移植外科)

・SP14-7 外科医のエルゴノミクスと働き方改革

・岡本 廣拳(都留市立病院 外科)

・SP14-8 特別発言:低侵襲手術におけるエルゴノミクスの必要性

・宇山 一朗(藤田医科大学先端ロボット・内視鏡手術学講座)

・参加者:日本臨床外科学会会員と本研究部会関係者 詳細な人数不明

・概要:行政,労使,学術,企業のマルチステークホルダを結集したセッションが本研究部会世話人・部会員を中心に企画され開催された。外科医の新部会員3名を迎えるきっかけとなった。開催報告は人間工学 2025, Vol 61, No1, p62-64に掲載。

5) 日本生理人類学会フロンティアミーティング(秋期),日本生理人類学会ものづくり研究部会×日本人間工学会 医療労働関連MSDs研究部会 ジョイントシンポジウム「ヒト特性に矛盾しない働き方を考えるー医療の現場からー」

・開催日:2024年11月30日(土)16:50~18:50 ハイブリッド開催

司会 下村 義弘(千葉大学)

・講演1:交代制勤務の負担を最小限に減らす方法を考える

・初治 沙矢香(京都大学)

・講演2:事故や間違いを防ぐー産業衛生の観点から

・安部 恵代(西九州大学)

・講演3:医療現場におけるMSDs軽減策の導入

・常見 麻芙(医療法人山下病院)

・講演4:消化器内視鏡労働の文化を人間工学アプローチで変革する

・松崎 一平(医療法人山下病院)

・参加者:日本生理人類学会会員と本研究部会関係者 詳細な人数不明

・概要:行政,労使,学術,企業のマルチステークホルダを結集したセッションが本研究部会世話人・部会員を中心に企画され開催された。開催報告は人間工学 2025, Vol 61, No1, p60, 61に掲載。

6) 第2回 医療労働関連MSDs研究部会 ワーク・アーゴノミクス研究部会 共催セミナー

・開催日:2024年12月18日(水)18:00~19:30 zoomによる開催

・司会 浅田 晴之(オカムラ)

- ・講演 1 斎藤 真(三重県立看護大学)
- ・演題: マルチディスプレイ型 VDT の人間工学的特性
- ・講演 2 井出 有紀子(NEC)
- ・演題: ベッドサイドの看護記録
- ・講演 3 大内 啓子(一般財団法人 日本色彩研究所)
- ・演題: ユニバーサルカラー
- ・講演 4 藤田 博紀(藤田眼科)
- ・演題: iCLO(アイクロ)~新しい目の休め方~
- ・参加者: 本研究部会員と一般 57 名
- ・概要: ワーク・アーゴノミクス研究部会様との共催セミナー「外来・ベッドサイドの医療従事者の働き方改革を考える会」が、産業保健人間工学会, 日本産業衛生学会作業関連性運動器障害研究会様の協賛で57名の方々に参加頂き開催された。第2回のテーマはモニターの人間工学と題し, 下記の講演が行われた。開催報告は人間工学 2025, Vol 61, No1, p66,67に掲載。

5) 世話人会

オンライン(Zoom)による世話人会議を下記の通り開催した。その他, 打ち合わせなどのメール会議を適宜行った。

- ・ 第7回世話人会議: 2024年7月4日(水) 17:00-18:05
ワーク・アーゴノミクス研究部会様との共催企画, 今後の医療MSDs 懇話会を当番世話人2人体制で企画する案, ISO JIS など労働衛生に関する規格に関する内容を含める案, 現地開催の懇話会案, 医療と私の人間工学 100Tips の掲載スケジュール, 本研究部会から医療現場への sit-stand workstation 文化を創造するためのプロジェクト発信案等が議論された。
- ・ 第8回世話人会議: 2024年11月14日(木) 17:00-18:00
第6回医療MSDs 懇話会のHCD-Net 共催企画に関して, 日本臨床外科学会, 日本生理人類学会とのジョイントシンポジウム企画に関して, 2025年度のJES全国学会シンポジウム案等が議論された。

6) 部会員

日本人間工学会会員を問わず, 医療従事者, 学会員, 企業の方々へ幅広く案内をすることで本学会員33名を含む部会員70名(2025年3月)の組織となっている。世話人会・メール会議にて密に協議し, 懇話会での活発な議論, 組織拡充を推進することができた。

(4) 問題点・展望

研究部会 HP により, 研究部会規約の公開, 関連学会・研究部会などとの共同企画や, 医療と私の人間工学 100Tips 等の教育コンテンツ, 機器情報の収集と発信を進める環境が整った。持続可能な研究部会を目指して多様性に配慮した新世話人・部会員の募集を進め, 学会内だけでなく, 外部団体, 医療従事者, 行政との連携を意識して活動を推進していく。

5-7. 航空人間工学部会

{部会長: 船引 浩平}

(1) テーマ

航空人間工学に関する知識の普及, 情報の共有化を目的として, 本年度は, 他分野を含む幅広いヒューマンファクター研究にかかわる進展, 事故事例から得た人間特性及びヒューマンマシンインターフェイスに関する事故防止方策の動向を分析検討する。

(2) 方法・手段

1) 第105回例会(公開講座)

前年同様以下内容で例会を開催した。

<例会概要>

日時:2024年7月9日(火)13:00-17:10

形式:対面式

場所:野村不動産天王洲ビル2階ウイングホール

講演内容:

- ①「ドローン・空飛ぶクルマ等の次世代航空モビリティに係る環境整備」JCAB 池田 拓郎様
- ②「空飛ぶクルマの取り組み～2025 大阪・関西万博そして社会実装を目指して～」JAL 関 遼様
- ③「空飛ぶクルマの運航管理システムの開発」JAXA 飯島 朋子様
- ④「タービュランスによる客室内負傷リスク低減に向けて」ANA 川元 淳一郎様 中尾 雅代 様

参加者数:109名

エアラインをはじめ、航空関連製造メーカー、自衛隊、大学など幅広い分野からご参加いただき、大変好評であった。講演資料については、今年度より紙から電子媒体を基本とし、環境、コスト面からの対応を図った。

2) 施設見学会

昨年度は航空業界、2022年度は自動車業界、(2020年、2021年は新型コロナウイルス感染により未実施)と航空以外の他業界も含め、施設見学を行ってきた。今年度は、例会での講演内容とも関連する内容の企業団体(ドローン関連、航空医学実験隊)の施設見学も検討したが、調整の結果、鉄道を中心とする交通インフラ工事を手掛ける鉄建建設株式会社の建設技術総合センターの研修施設の見学を実施した。受け入れ人員の関係から航空人間工学部会の委員、幹事およびその所属会社で募集を行った。

<鉄建 建設技術総合センター 見学実施概要>

日時:2025年2月6日(木)

場所:建設技術総合センター(研修、研究開発施設 千葉県成田市)

参加人数:11名

見学内容:鉄道インフラ施工研修施設

3) 部会ホームページの運営

インターネットを使った部会ホームページを活用して当研究部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示を行った。また、今年度セキュリティ向上、サイト編集の容易化からホームページのリニューアルを行った。また例会(公開講座)での講演資料については、ホームページからのダウンロードを基本とし、希望者がいれば、例会後でも講演資料の提供が可能となった。

4) 委員会・幹事会の開催

A. 委員会

今年度は、3回の委員会を開催し、年度の計画、実施、次年度の計画などの決議を行った。

- ① 第80回委員会(2024年5月28日、10:30-12:00)、Zoomによるオンライン形式

議題:

- ・新任委員承認
- ・今年度の委員会メンバー確認、2024年度計画予定
- ・2024年度予算
- ・第105回例会(公開講座)開催準備確認

- ・例会冊子電子化
- ・部会活動条件の実施について
- ・今後の予定

② 第81回委員会(2024年11月26日,10:30-12:00),Zoomによるオンライン形式

議題:

- ・新任委員承認,次期部会長選任
- ・2024年度収支状況
- ・第105回例会(公開講座)開催報告と振り返り
- ・第106回例会(公開講座)に向けた準備
- ・施設見学会について
- ・部会継続条件の実施状況
- ・今後の予定

③ 第82回委員会(2024年3月25日,10:30-11:00),Zoomによるオンライン形式

議題:

- 施設見学会振り返り
- ・第106回例会(公開講座)開催準備
- ・例会冊子の電子化について
- ・2024年度事業報告・2025年度事業計画
- ・幹事社交代
- ・今後の予定

B. 幹事会

3回(5,11,3月)開催

幹事会を開催し,例会及び見学会の開催可否や形式等について議論を行い,部会活動を円滑に進めるとともに,幹事の意見を部会活動に反映させることができた。

(3) 成果

今年度も対面を基本とする活動を実施することができた。例会(公開講座)では,テーマを Advanced Air Mobikity と Turbuence に絞り多数の方に参加していただき関心の高さを実感した。講演に対する活発な質疑,会場での会員同士の会話,情報共有が行われている様子がうかがわれた。

施設見学会では,鉄建建設の技術安全総合センターで鉄道インフラにおける安全教育,鉄道の安全システムについて学ばせていただき,安全と品質そして技術の連携に重きを置いていることを学んだ。

ホームページの運営では,セキュリティ,見やすさを考えたレイアウトに変更し,例会での貴重な講演資料については,サーバー内で管理ができるようになり,また紙での印刷を減らし環境破壊に貢献する対応が図れた。

5-8.アーゴデザイン部会

{部会長:郷 健太郎}

(1) 目的と活動テーマ

本部会は,モノづくりやサービス開発において,人間工学とデザインを融合した学際領域「アーゴデザイン」に対し,産学連携による研究と情報発信を行うことを目的としている。

2024年度は,フューチャーエクスペリエンス(FX)の確立を目指し,実践的手法による事例を通じた研究活動を展開した。とくに,従来から取り組んできたビジョン提案型デザイン手法との関係性を明確化し,アーゴデザインの実践に挑戦した。

また,社会環境性およびその実現可能性を踏まえ,人間工学研究のさらなる必要性を認識し,「ビジョンと社会実装」に関する研究と議論をアーゴデザインの視点から継続的に行ってきた。

(2)部会運営と主な活動内容

・部会員：101名(正会員63名,学生会員38名,2025年3月31日現在)

・活動概要：2024年度は,コンセプト事例発表会1回,見学会1回,FXフォーラム1回,合宿研究会1回,FXワーキング読書会4回,幹事会4回等の様々な活動を実施してきた.以下に主な活動を記す.

1) 2024年度コンセプト事例発表会開催(2024年9月18日)

於:芝浦工業大学 参加者:63名

口頭発表 5件

ポスター発表 19件

ワークショップ:「ビジョン・社会実験ワークショップ」

講師:山崎 和彦氏(株式会社Xデザイン研究所/武蔵野美術大学ソーシャルクリエイティブ研究所)

パネルディスカッション(アーゴデザイン部会FXワーキンググループ)

2) 2024年度見学会開催(2024年12月11日)

於:国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所,海上技術安全研究所 参加者:15名

見学施設:操船シミュレータ

見学概要:自動運航船に係るヒューマンファクター関連実験の紹介

3) HCD-Net事例発表会 + Future Experience(FX)フォーラム開催(2025年2月28日)

於:株式会社島津製作所 本社 参加者:101名(対面:36名,オンライン:65名)

発表4件を実施.

◆「ビジョンの社会実装へ向けた挑戦」

郷 健太郎氏(山梨大学)

◆「巨大IPを利用した人を基軸とした造形アイデア創出支援についての一考察」

細田 彰一氏(日本工業大学)

◆「ローカルデザインとシステムデザインによるビジョンの社会実装

徳田 彩氏(株式会社Muture/Xデザイン学校)

◆「ビジョンを社会実装するための文化の活用」

山崎 和彦氏(株式会社Xデザイン研究所/武蔵野美術大学ソーシャルクリエイティブ研究所)

4) 2024年度合宿研究会(2025年3月14日-15日)

於:湘南国際村センター 参加者:23名

<テーマ>「アーゴデザイン部会が取り組むビジョンの社会実装」

副題:組織におけるマインドフルネス~複雑な社会問題に向き合い,未来の社会を見据えるための技術を探る~

<実施内容>

社会課題の共有:

・各自が「自分ごと」として感じている社会課題を吐き出す

・チームで共有できる社会課題を選ぶ

社会課題に対してワークショップを実践:

・マインドフルネス・マップの作成

・アクターズ・マップの作成

課題解決の議論:

・製品・システム・サービスの発想

・解決に向かうアクティビティリストを作成

参加者全員によるグループでの討論を実施。

4 グループに分かれて社会課題を議論し、それぞれがビジョンの提案と社会実装へのアプローチを発表した。

5) 2024 年度 FX ワーキング読書会(2024 年 8 月 15 日, 10 月 12 日, 12 月 22 日, 2025 年 1 月 22 日)

於: X デザイン会議室, 山梨大学東京オフィス, 及び, オンライン 参加者: FX ワーキンググループメンバー全員

対象書籍:

1. 世界観のデザイン(岩渕正樹著/クロスメディア・パブリッシング)
2. クリティカル・ビジネス・パラダイム(山口周著/プレジデント社)
3. システミックデザインの実践(ピーター・ジョーンズ, クリステル・ファン・アール著, 高崎拓哉訳, 竹山政直監修/ビー・エヌ・エヌ)

対象書籍の各章を分担し, 輪読および討論を行った。

手法およびテンプレートについては, 部会で得られた成果であるエクスペリエンスビジョンと比較・検討を行った。

6) その他の活動

- ・FX_WG 活動中。(担当幹事: 高橋, 上田, 石山, 吉井, 笠松, 郷, 佐藤, 西内, 早川, 細田, 山崎)
- ・UD 実践ガイドライン WG 関連活動休止中。(担当幹事: 山崎, 柳田)
- ・アーゴデザイン未来 WG 活動中。(担当幹事: 石山, 笠松, 西内, 西平)
- ・ホームページ運用。(担当幹事: 早川, 吉井)
- ・学生会員に対する指導, 啓発活動を実施。(担当幹事: 笠松, 西内, 細田, 吉武)
- ・アーゴデザイン部会メールマガジンの発行。(担当幹事: 石山)
- ・会員及び幹事会メーリングリスト及び, ホームページホスティングを ergo-design.org にて運営。

(3) 成果と展望

- ・社会・環境的視点を含んだ「フューチャーエクスペリエンス (FX)」の概念を提唱し, ビジョン構築手法と実践, 社会実装に関する研究を深めてきた。
- ・FX ワーキンググループにおける読書会や合宿研究会を通じて, ビジョンの社会実装に向けたアプローチの重要性を再確認した。
- ・今後は, 部会で得られた知見をより広く一般に共有・公表するための準備を進めていく。

5-9. 海事人間工学研究部会

{部会長: 村井 康二}

(1) テーマ

日本は海に囲まれた島国であることから, 他国に比べて多くの方が海に携わった仕事に従事している。更に, 仕事として関わりが無くても, 非常に多くの方が趣味としてマリレジャーを楽しんでいる。しかしながら, これら海事の分野において, 人間工学を学術的に取り入れた研究や製品開発に活かした事例は現時点ではまだまだ少ない。そこで, 本研究部会の活動を通して, 人間工学を海事分野に広く普及させ, 海事の現場に人間工学に基づき設計されたシステムや製品導入を加速させる。

(2) 手段・方法

1) 企画セッションの実施

2024 年 6 月 22-23 日に開催された日本人間工学会第 65 回大会にて, 下記のテーマに関して企画セッションを実施した。

(第 65 回大会)

テーマ: 航海の安全を支援する技術と教育

2) 見学会の開催

自動・自律化船のシステム評価のために開発された海上技術安全研究所の総合シミュレーションシステムの見学会をアーゴデザイン部会と協力して実施した。

3) 学会誌への情報発信

海事人間工学研究部会の研究成果の一つであるダイバーの安全監視にかかる「水中におけるヒトの生体電位計測～ダイバーの安全監視の一つの方法として～」について取り纏め学会誌60巻4号の総説により情報発信した。

4) 幹事会の開催

2024年6月23日に公立千歳科学技術大学(北海道千歳市)で第1回幹事会を開催し、その他オンラインによる幹事会を2回実施し、2024年度の事業遂行状況及び事業計画についての検討及び2025年度の本研究部会の事業計画(案)の策定をした。

(3) 成果

学会の企画セッションを通じて、最新の海事関連研究に関する情報を発信し、他分野の人間工学専門家や研究員と海事分野における人間工学について議論することができた。また、総説を通じて海事人間工学のみならず人間工学に関わるメンバーに有益な知識・実践の共有を行うことができた。

(4) 展望

人間工学を専門とする研究者や技術者が海事分野における研究課題に関心を持てるよう、さらに魅力的な企画セッション、見学会、座談会等を開催する。更に、当研究部会の活動を広く知ってもらうために、当学会以外にも積極的に情報を発信して行く。

5-10. ワーク・アーゴノミクス研究部会

{部会長:井出 有紀子}

(1) テーマ

在宅勤務やオンライン会議などのオフィスワークでの新しい働き方や環境も踏まえつつ、ポストコロナ時代の働き方や定年延長や人生100年時代、多様性雇用を見据えて、働く人々の健康と安全を守るための人間工学について研究するとともに、知識の普及を図ることを目的とする。

(2) 活動内容

1) 幹事会&部会 2024年5月15日(Zoom), 2024年9月12日(Zoom), 2024年11月20日(対面)の3回、幹事会を開催した。

2) 第65回大会における企画セッション

- ・ テーマ:「働き方の自己管理 ～自分を守るために～」(2024年6月23日)

① 「働く人のための人間工学JIS規格の改正」

青木 和夫氏(日本大学)

② 製造業におけるDX推進が精神的作業負荷に及ぼす影響について

泉 博之氏(日本製鉄所M&E株式会社)

③ 自動車整備工場における疲労の一例: パワーツール活用の実態

伊藤 勝弘氏(商品企画アドバイザー/整体師)

3) 見学会とミニワークショップの実施

2024年11月20日、自宅でもオフィスでもない第3の場としての3x3Lab Futureを見学し、新たな創造的な働く環境について学んだ。また、移動中を中心とした多様な働き方における課題を抽出することを目的に、館長の神田氏も参加してミニワークショップを行った。

4) セミナーの主催・共催と日本人間工学会誌への学術開催報告の執筆

2024年度は以下の3つのセミナーを開催した。

- テーマ:医療労働関連 MSDs 研究部会共催セミナー第 1 回「デスクワークの環境調整」
2024 年 9 月 4 日 18:00~19:30@Zoom
 - ① 外来医療・看護師業務の現状
松崎 一平氏(山下病院)
 - ② 情報機器作業の人間工学~作業環境管理と作業管理を中心に~
吉武 良治氏(芝浦工業大学)
 - ③ オカムラの机と椅子
深津 善之氏(オカムラ株式会社)
- テーマ:医療労働関連 MSDs 研究部会共催セミナー第 2 回「モニターの人間工学」
2024 年 12 月 18 日 18:00~19:30@Zoom
 - ① マルチディスプレイ型 VDT の人間工学的特性
斎藤 真氏(三重県立看護大学)
 - ② ベッドサイドの看護記録
井出 有紀子氏(NEC)
 - ③ ユニバーサルカラー
大内 啓子氏(一般財団法人 日本色彩研究所)
 - ④ iCLO(アイクロ)~新しい目の休め方~
藤田 博紀氏(藤田眼科)
- テーマ:「多様な働き方時代に対応するためのヒント」
2025 年 1 月 15 日 16:00~17:30@Zoom
 - ① 「これからの健康経営」
忠内 美保氏(経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課)
 - ② 「良い作業システムを設計するための人間工学 JIS 規格の改正について」
青木 和夫氏(日本大学)

(3)成果と展望

2024年度は、第65回大会の企画セッションでの発表や、3×3Lab Futureの見学と議論、健康経営やJIS規格の改正のセミナーを実施することによって、高齢者や女性などの働き方で気を付ける点などを知ることができた。また、医療労働関連MSDs研究部会共催セミナーによって、PCモニターなどに関する人間工学の歴史や人間の特性にかかわる注意点や健康を守るための示唆を知ることができ、医療現場を中心としたより良い働き方へのヒントを得ることができた。

今後も多様な働く人々の健康と安全を守るための人間工学について研究するとともに、社会に認知されるように知識の普及を図っていきたい。

5-11.システム大会部会

{部会長:衛藤 憲人}

(1)活動テーマ:

人間工学をシステム論的立場から研究・議論することを目的に立ち上がった本部会も 33 年目を迎えた。多種多様な専門分野(感性情報処理・官能評価部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧視覚エルゴノミクス研究部会)を、様々な視点から議論できる大会(システム大会)も本年度 3 月の開催にて 33 回を数えた。同大会では、新型コロナウイルス感染拡大時に培った Online 形式の知見を活かし、今回もハイブリッド(対面+オンライン)形式にて開催した。対面の活発な議論に加え、遠方より気軽に参加できる本開催スタイルは、非常に好評であった。また通常の大規模学会とは異なり、発表・質疑応答時間を長く取るスタイル(発表 20 分、質疑応答 10 分)も極めて好意的に捉えられた。二日にわ

たり開催した大会は、対面・オンライン合わせ 100 名を超える参加者を集め、極めて成功裏に終えるができた。さらに本年度も、大会参加をきっかけに日本人間工学会の若手入会希望者を得ることができ、小さいながらも学会への貢献を行えたものとする。同大会開催に向けて複数回の幹事会を開いたので報告する。

(2)部会運営と主な活動内容

○システム大会幹事会

・第 1 回システム大会幹事会

日時:2024 年 11 月 02 日(土)15:00~15:40

方法:Zoom による Online 会議

議題:第 32 回システム大会報告・第 33 回システム大会開催方法の討議 等

・第 2 回システム大会幹事会

日時:2024 年 12 月 21 日(土)10:00~10:25

方法:Zoom による Online 会議

議題:夜話, セッション, 広報, その他部会運営について

・第 3 回システム大会幹事会

日時:2025 年 03 月 01 日(土)10:00~10:50

方法:Zoom による Online 会議

議題:システム大会プログラム作成および大会開催最終確認

(3)展望:

過日(令和 5 年度)本部会に加わった若手幹事が主催した本大会は、極めて活発な議論と、新たな専門分野(AI 分野)を開拓し、極めて好評な大会となった。今後も、若手研究者の意見を積極的に取り込み、より活発な活動、開かれた学会を企図している。加えて、さらなる他分野の研究者の参加、英文機関紙(Journal of Ergonomic Technology: JET)の継続的な発行を推進し、JES 発展に向けて積極的展開を目指したい。

Ⅲ.2025年度事業計画(案)

Ⅰ.事業計画

{総務担当:河合 隆史,申 紅仙}

- (1) 一般社団法人日本人間工学会は、人間工学を実践する学術団体として、健やかな人間の営みと、物理・組織・社会環境が調和した持続可能な社会システムの構築に寄与することを目指す。
- (2) 第66回大会を榎原毅大会長のもと2025年5月21日(水)~23日(金)に北九州国際会議場(福岡県北九州市)で開催する。
- (3) 2025年定時社員総会を2025年5月23日(金)に北九州国際会議場において開催し、2024年度事業報告・収支決算、2025年度事業計画・収支予算の審議等を行う。
- (4) 第67回大会を横山清子大会長のもと2026年5月23日(土)~24日(日)に名古屋市立大学 滝子キャンパス(愛知県名古屋市)にて開催することとし、準備を進める。
- (5) 理事会を年4回以上開催する。
- (6) 学会主催の有料セミナーを開催する。
- (7) ホームページ、JESニュースレターを中心に広報活動を推進する。人間工学のパンフレットを刷新し、広く配布する。
- (8) 学会誌「人間工学」の運営方針「投稿したい、読みたいジャーナルを目指して」を掲げ、これまで取り組んできた実践系論文の投稿推進策を軌道にのせる。学会誌「人間工学」の第61巻2~6号および第62巻1号の計6冊を発行する。
- (9) 認定人間工学専門家資格認定試験(A方式試験)を年2回実施、また人間工学準専門家および人間工学プラクティショナーの各試験を年4回程度実施する。その他、再認定制度(生涯研修制度)推進等の活動を行うとともにシンポジウム、講演会、セミナー等を開催し、資格制度の対外アピールを積極的に行う。
- (10) 長期的に事業を行う常設委員会・担当と、特定の目標を定め、得られた成果を学会として組織的に活用する臨時委員会・担当を置く。常設委員会・担当としては、総務担当、財務担当、広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、表彰委員会、学術委員会、人間工学専門家認定機構を設ける。また臨時委員会・担当として、若手支援委員会、企業活動推進委員会、国際誌検討委員会、普及委員会、戦略・将来構想委員会、PSE委員会、利益相反・倫理委員会、人間工学研究標準化推進委員会、選挙管理委員会、役員候補者推薦委員会、第66回大会担当および第67回大会担当を設置し、各事業を積極的に進める。
- (11) 2024年度から継続して5つのプロジェクト事業を行う。
- (12) 支部活動および研究部会活動を推進し、その成果を学会員ならびに社会に広める。感性情報処理・官能評価部会、衣服人間工学部会、医療労働関連 MSDs 研究部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、海事人間工学研究部会、ワーク・アーゴノミクス研究部会、ビッグデータ人間工学研究部会、システム大会部会の計9研究部会で活動を行う。
- (13) IEA(国際人間工学連合)および ACED(アジア人間工学評議会)と連携して様々な国際協力活動を推進する。IEA からの情報の国内展開、および JES 情報の海外発信などを行う。韓国、台湾の各人間工学会との国際連携セッションを企画する。
- (14) ISO/TC159(人間工学)分野の規格の作成・審議および人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。TC159, TC159/SC1, TC159/SC3, TC159/SC4, TC159/SC5関連の国際会議に出席し、人間工学規格の策定や審議に貢献する。サービス人間工学に関する国際標準について規格提案に資する活動を行う。

- (15) 2025年度各賞の授与式を行う。また、2026年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進める。各表彰制度の公正かつ効率的な運営および国際表彰への対応の仕組みの検討・整備を進める。
- (16) 日本学術会議、学術政策等の動向をウォッチするとともに、関連する他学会等との連携のための窓口として活動を継続して行う。
- (17) 若手会員を支援するため、若手会員の研究やキャリア形成を支援することを目的とした活動を行う。
- (18) 企業ニーズに基づいたイベント/セミナーを企画～実行することで、参加企業の取組み活性化を図る。
- (19) 日本人間工学会の特色ある公式英文誌の創刊を目指し、第7-8期で検討を進めた方向性のブラッシュアップおよび運用計画を新体制の下、和文誌編集委員会と連携し検討する。
- (20) 社会に人間工学を広く普及させるため、新たな学会員獲得、および退会者減少を目的に、外部ステークホルダ(企業・教育現場・各団体組織・自治体・行政)と内部ステークホルダ向けの事業に分けて、戦略的・効果的な普及活動を行う。
- (21) 日本人間工学会第66回大会にて、内閣府の国家標準戦略委員や標準に掛かるアカデミアの連携を進めている担当者を交え「人間工学標準の拡がり」と国家標準戦略」に関する企画セッションを実施する。
- (22) IEA改訂コアコンピテンシーに基づき、JESとBCPE-Jが連携しながら人間工学の教育、普及、実践のサイクルを確立することを推進する。
- (23) 利益相反委員会を組織し、規程の整備に着手した。倫理指針について国の指針に照らし再改定すべき点の検討を開始した。また他学会の動向の調査を行った。
- (24) 人間工学に関する研究成果を社会へ普及させる一環としてJISおよびISO等の標準化活動の枠組みを活用し、人間工学研究の社会実装を促進する活動を実施する。
- (25) 学会事務局は、学会内外の情報伝達の要としての役割を果たすとともに、迅速で正確な業務の執行に努め、学会運営の基盤を支える。また、適宜業務内容を見直し、その効率化と経費節減をはかる。

2. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

2-1. 広報委員会

{委員長:松田 文子, 副委員長:下村 義弘}

- (1) 理事会, 支部, 委員会, 研究部会, 事務局などと連携・協力のもと, ホームページ, JES ニュースレターを中心に広報活動を推進する. 重要ニュースのお知らせ, 学会主催/協賛等のイベント案内, 社会発信等を, Facebook, Instagram 等も活用し, 幅広い人々の協力を得ながら行っていく.
- (2) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続するとともに, 掲載事例を増加させるために, 全国大会だけでなく, 支部大会や講演会, 人間工学専門家認定機構 (BCPE-J) の会合などで積極的に呼び込む. GPDB の社会的意義や今後の普及について議論する場として, JES 全国大会においてシンポジウムを企画する.
- (3) 「人間工学の総合データベース (ERGO Directory)」の更新, 拡充を図るために, 全国・支部大会や講演会, BCPE-J の会合などの機会を活用する.
- (4) 人間工学のパンフレットについて刷新を行い, 支部大会や講演会, BCPE-J の会合, 関連領域学会, 各種学校 (大学, 高校, 専門学校) などで配布するとともに, 人間工学の体系化・教育・普及促進に向けて関連する新領域も含めた広報を行う.
- (5) WEB リニューアルにおいて検討を進めていく.

2-2. 編集委員会

{委員長:村木 里志, 副委員長:近井 学}

- (1) 学会誌「人間工学」の年6号分の編集・発行業務を行う (紙媒体およびJ-Stage掲載).
- (2) 学会誌「人間工学」の運営方針「投稿したい, 読みたいジャーナルを目指して」に従って活動する. 特に, 「理論」と「実践」の両輪を扱うジャーナルとして特に「実践」系の論文の投稿促進策を展開する.
- (3) 投稿者への利便性向上, 円滑かつ迅速な審査体制の整備等を進めるため, 投稿・査読管理システムを更新する (Editorial Managerへ移行).
- (4) 編集委員会を年4回程度, 査読委員会を年1回程度開催する.
- (5) 60周年記念の特集記事として理事が考えるリサーチ・イシューを編集・運用する.
- (6) 表彰委員会との協同による査読者表彰制度の運用 (トップ10%査読者賞) 等を行う.
- (7) 学会誌の発行形態に関し, 引き続き国際誌検討委員会との協働による検討を行う.
- (8) 編集委員の負担軽減に取り組み, サステイナブルな編集体制を構築する.
- (9) その他, 編集委員会所掌業務への迅速な対応をはかる.

2-3. 国際協力委員会

{委員長:持丸 正明, 副委員長:八木 佳子, 小谷 賢太郎}

- (1) IEA 評議会への出席
- (2) ACED 評議会への出席

上記(1)(2)については国際協力委員が JES からの council member として 3 名分の投票権執行

(3)国際協力活動およびその他

- 1) IEA アワード申請への協力
- 2) IEA 内の各委員会への協力
- 3) ACED 内の各委員会への協力
- 4) 学会内各委員会などへ国際協力委員としての参加
- 5) 学会誌への国際学会参加報告の執筆
- 6) 国際誌検討委員会への協力
- 7) JES-ESK-EST の国際連携セッションの企画, 運営
- 8) そのほか, JES 活動に関する海外への情報発信, 国際協力委員会ウェブサイトの更新・広報など

2-4.ISO/TC159国内対策委員会

{委員長:佐藤 洋, 副委員長:横井 孝志}

ISO/TC159(人間工学)分野の規格の提案,作成,審議,ならびに人間工学JIS規格の作成,普及・啓蒙のための活動を行う。

(1)会議:全体会議3回,分科会延べ30回前後開催予定

(2)日本主導で審議が予定されている項目

・「サービスの人間工学」

新規提案をISO/TC159に提出し,提案が通り,新たなWGをTC159直下に設立,またはSC1/WG5にて規格 ISO/AWI 21372 Ergonomics — General ergonomic requirements and recommendations for serviceを開発予定。

・WG2(高齢者・障害者の人間工学)

・ISO/TR 22411-2 Ergonomic data and ergonomic guidelines for the application of ISO/IEC Guide 71(2nd Edition)

・SC1(人間工学の基本原理)

・ISO/WD 27502 Ergonomics – Human-centred design of products and services – Principles and activities

・SC5(物理環境の人間工学)

・ISO/CD 24505-2 Ergonomics — Accessible design — Method for creating colour combinations — Part 2: For people with defective colour vision and people with low vision

・ISO/DIS 24505 Ergonomics — Accessible design — Method for creating colour combinations taking account of age-related changes in human colour vision

(3)国際会議予定

・TC159 関連会議,TC159/SC1 関連会議,TC159/SC3 関連会議,TC159/SC4 関連会議,TC159/SC5 関連会議ほか

2-5. 表彰委員会

{委員長:吉武 良治,副委員長:國澤 尚子}

- (1)表彰選考等に係る広報委員会,編集委員会,国際協力委員会,ISO/TC159国内対策委員会,人間工学専門家認定機構等と連携し,公正かつ効率的な業務運営を行う。
- (2)功労賞,論文賞,研究奨励賞,人間工学グッドプラクティス賞,トップ10%査読者賞,標準化貢献賞,実践論文賞の選考を行い,各受賞者に対する授与式を行う。
- (3)大会における優秀研究発表奨励賞の選考を行い,受賞者の所属する支部大会において授与する。
- (4)表彰委員会ウェブサイトの拡充を図るとともに,受賞者や表彰事例の周知等,学会内外への情報提供に努める。
- (5)本学会以外のIEA等国内外の組織の表彰に対する候補者を推薦する。

2-6. 学術委員会

{委員長:加藤 麻樹,副委員長:能登 裕子}

日本学術会議,学術政策等の動向をウォッチするとともに,関連する他学会等との連携のための窓口として活動を継続して行う。

- (1)部会間の連携を図り,研究リソース情報にかかる共有体制の構築を検討する。
- (2)全国大会と学会との連携により,会員の研究リソースを周知に寄与する提案を検討する。
- (3)日本学術会議,JSPS,他学会との連携による学際的研究シードの発掘に寄与する提案を検討する。
- (4)複数大学間で研究協力者等の研究リソースにかかるデータベースを構築し,実験/調査リソースの共有を図る。
- (5)その他,人間工学に寄与する学術的発展的提案の具現化を検討する。

2-7. 人間工学専門家認定機構

{機構長:榎原 毅,副機構長:仲谷 尚郁}

- (1)資格認定試験及び審査を実施する。
 - ・資格認定試験(A方式試験)を年2回,東京と大阪会場で実施する。
2025年9月6日(土) 東京開催
2026年2月14日(土) 大阪開催
 - ・準専門家・プラクティショナー審査を年4回程度実施する。
- (2)定期総会,講演会,幹事会を開催する。
 - 講演会
日時:2025年4月18日(金) 15:00~16:45 現地(TKP新宿)とオンラインのハイブリッド開催
下記2名の認定人間工学専門家による講演
講演1:境 薫(富士通株式会社)「サービスデザインと人間工学」
講演2:倉部 勇一(日本光電工業株式会社)
「医療機器のユーザビリティ規格改正の概要と人間工学専門家認定機構への期待」
 - 総会
日時:2025年4月18日(金) 17:00~17:45 現地とオンラインのハイブリッド開催

幹事会(2~3回開催予定)

- (3)再認定を促進するため、個別に更新手続きを案内する。
- (4)日本人間工学会内外に認定機構の資格制度及び活動紹介を行うため、支部大会等で発表及びPRをする。

【日本人間工学会第66回大会】

ワークショップB 5月21日(水)13:00~16:30

「Ergonomics Crossroads ~出会いはここから~」

(若手支援委員会・BCPE-J共同企画)

<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/jes66/content/workshop>

- (5)機構ホームページ,会報,人材DB(ERGO Directory),学会大会,広告等を活用して会員の交流と本制度の対外アピールに努める。
- (6)CPEセミナー,CPEサロン(交流会)等のイベントを充実させる。
- (7)受験ガイドブック等を英語に翻訳し公開するなど,英語による受験への対応体制を整える。
- (8)「人間工学グッドプラクティス賞」(GP賞)の審査に積極的に協力する。
- (9)時代の変化と技術の進歩に対応するため,受験ガイドブック改定の検討を行う。

[臨時委員会・担当]

2-8.若手支援委員会

{委員長:石橋 圭太,副委員長:齋藤 誠二}

- (1)若手会員の研究やキャリア形成を支援するための企画を検討する。
- (2)学生や若手が学会活動に継続的に参加できるような仕組みを検討する。
- (3)他委員会,支部大会と連携した支援企画を検討する。

2-9.企業活動推進委員会

{委員長:横山 詔常,副委員長:井出 有紀子}

前年度の活動内容を継承し,参加企業のニーズに基づいたイベント/セミナーを企画~実行することで,参加企業の取組み活性化を図る。

(1)アクションプラン

- 1)企業での人間工学活動の現状や課題などについて継続的に情報収集する。
- 2)得られた情報を基に,企業内活動を進めていくためのヒントや気づきが得られるような,イベント/セミナーなどを企画~実行する。具体的には,4~5地域にて人間工学リレーセミナーを開催し,各地での実践的な取り組みを紹介するとともに,社会実装の課題解決に向けた議論の場を提供する。

(2)活動成果の顕在化

- 1)学会のホームページ,大会などを通じて情報発信する。
- 2)他の委員会,他機関などとの連携を図り,活動内容を学会内外に幅広くアピールする。

2-10.国際誌検討委員会

{委員長:榎原 毅, 副委員長:村木 里志}

学会の公式和文誌「人間工学」は日本の重要誌500誌のひとつとして選定され、当時のJournal @rchive事業で全電子アーカイブ化がなされるなど、和文誌としては国内有数の歴史を持つジャーナルのひとつである。一方、学術成果の国際発信基盤の整備という面においては、周辺研究分野に比べ遅れている。日本人間工学会の特色ある公式英文誌の創刊を目指し、第7-8期で検討を進めた方向性について普及実装・運用計画を立案する。

- (1) 特色ある公式英文誌の方向性(7-8期策定):①「理論と実践の橋渡し」を促進させるジャーナル,②和文誌の資産を継承したハイブリッド・ユニバーサルジャーナル化(多言語対応),③創刊時にオンラインジャーナルへ移行,④IEA Endorsement Journal化
- (2) 和文誌編集委員会と連携し、具体的な普及実装・運用計画の立案:発刊予定の国際誌が対象とする範囲・特色や投稿規程,各種プラットフォーム(出版社,投稿・査読システム,査読方針,掲載料など),ジャーナル名称,ならびに組織運用体制などの制度設計を行う
- (3) 国際誌の継続発行(持続可能性)に関する方策の検討(論文投稿者のボトムアップ・育成方策を含む)
- (4) 人間工学研究知見の社会還元を促進させるトランスレーショナル・ジャーナルに必要となる仕掛けの検討(国際誌のアウトリーチ戦略を含む)
- (5) その他,国際誌の発行・運営に必要な諸活動の実施

2-11.普及委員会

{委員長:松崎 一平, 副委員長:和田 一成}

人間工学は社会に広く浸透し、関連領域専門分野・学会等も普及しているが、すべての人がその恩恵を受けていない現状がある。人間工学基本概念の価値は不変であり、社会や産業界に欠かせない学問として広く啓発・発信し続ける必要がある。

社会に人間工学を広く普及させるために、普及委員会は、JES内部ステークホルダと協働し、企業・教育現場・各団体組織・自治体・行政といった外部ステークホルダを巻き込み JES を活性化するための戦略的・効果的な普及活動を行う。

(1)手段・方法

- 1) 多様性を考慮した組織体制の整備
研究分野,支部会,所属組織,ジェンダー,年齢など,多様性を重視した委員メンバーの組織体制を構築しているが,高校生とのワークショップなどを全国に広げるために大学院生を中心にした普及委員会認定サポーター(仮)として委員メンバーを募集し学会のアクティブメンバーを増やすことに寄与する。
- 2) 人間工学に関する教育機会の提供(セミナー開催)
高校生や多分野の研究者が参加できる企画を各委員会,研究部会等と協力して行う。人間工学の基礎から実践までわかりやすい教育講演も行う。会員同士の読書体験を共有し,新たな研究シーズの発見に寄与するオンラインサロン「人間工学のツマミになる読書」を継続開催する。
- 3) 関連学会・研究部会などとの共同企画の実施および連携
関連学会・研究会との共催企画を進め,多分野の研究者をJES入会に繋げるような取り組みを行う。また,収益事業化のモデルケースを目指す。会員の研究内容や学会活動の魅力などを紹介する企画を継続する。
- 4) その他,本研究会趣旨に必要なと思われる諸活動の実施

「キャリアタイムサポーター」(名古屋市)制度等を人間工学会員が活用できることを目指し検討を進める。その他、義務教育・高等教育レベルにおける人間工学教育環境の整備・実施など。

(2)期待される成果

人間工学領域に関心のある研究者と問題意識を共有し、人間工学の基礎・実践を学ぶ機会を広範に提供することにより、関連領域の学問との交流を活性化し、若手研究者の勧誘を期待できる。人間工学の発展および学会員の増員は、「すべての人に人間工学が寄り添うやさしい社会」の実現に寄与する。

2-12.戦略・将来構想委員会

{委員長:持丸 正明,副委員長:鳥居塚 崇}

国家標準戦略が具体化し始めている中、人間工学を取り巻く標準も拡がりを見せ始めている。これらは人間工学の研究、社会実装の将来構想に重要な意味を持つことから、日本人間工学会第66回大会にて、内閣府の国家標準戦略委員や標準に掛かるアカデミアの連携を進めている担当者を交え「人間工学標準の拡がり」と国家標準戦略に関する企画セッションを実施する。

2-13.PSE 委員会

{委員長:鳥居塚 崇,副委員長 榎原 毅}

IEA改訂「Core Competencies in Human Factors and Ergonomics」改訂版の日本語版をIEA Pressから昨年出版した。改定コアコンピテンシに対応する体系的な人材育成プログラムを検討し、JESおよびBCPE-J会員のスキルアップにつなげる取り組みを検討する。JES理事長とBCPE-J機構長が定期的に情報交換を行い、人間工学の発展に向けた施策について検討する。

2-14.利益相反・倫理委員会

{委員長:大須賀 美恵子,副委員長 鳥居塚 崇}

- (1)本学会としての利益相反規程の制定に向け、昨年度作成した仮の規程案について委員会で議論をして委員会案を作成し、パブリックコメントを集め、必要に応じて改定し、委員会規程として策定する。
- (2)本学会の規程の再改訂について議論し、必要があれば改訂作業を行う。他学会とも連携して、倫理指針や推奨の啓発活動や遵守を支援するしくみを検討する。
- (3)委員会のwebページを作成し、利益相反および倫理に関する取り組みを広報するとともに、つねに会員の意見やコメントを受け取り、委員会活動に反映するしくみをつくる。

2-15. 人間工学研究標準化推進委員会

{委員長:佐藤 洋}

人間工学に関する研究成果を社会へ普及させる一環として JIS および ISO 等の標準化活動の枠組みを活用し、人間工学研究の社会実装を促進する活動を実施する委員会として、今年度は以下の活動を実施する。

- (1) JES 会員やプロジェクトで ISO や JI 等の標準になりそうな研究に対する標準化のための作業やアドバイスによる支援および ISO や JIS への上程のための活動を推進する。
- (2) 委員会の立ち上げおよび支援内容の構築を実施する。
- (3) また、学術委員会と連携しながら、標準化の候補となる研究に取り組んでいる研究者に情報提供を行うなど、積極的に情報提供活動を実施する。

2-16. 選挙管理委員会

{委員長:小谷 賢太郎}

一般社団法人日本人間工学会定款に規定する代議員及び役員選挙に関する業務を行うため、選挙管理委員会を設置する。

2-17. 役員候補者推薦委員会

{委員長:鳥居塚 崇}

一般社団法人日本人間工学会定款に規定する役員選挙に関わる次期役員候補者を検討し、推薦する。

2-18. 第 66 回大会担当

{担当:榎原 毅}

【開催日】2025年5月21日(水)~23(金)

【大会会場】北九州国際会議場 対面開催

【懇親会会場】北九州国際会議場1階イベントホール

【内容】特別講演, 日韓台・日伊・国際標準化規格, 他9のシンポジウム, 60の一般セッション, 機器展示等

2-19. 第 67 回大会担当

{担当:横山 清子}

【開催日】2026年5月23日(土)~24日(日)

【大会会場】名古屋市立大学 滝子キャンパス(愛知県名古屋市)

[プロジェクト]

2-20.AMED プロジェクト

{担当:榎原 毅,大須賀 美恵子}

- ・日本医療研究開発機構(AMED)によるヘルスケア社会実装基盤整備事業「メンタルヘルスに対するデジタルヘルス・テクノロジー予防介入ガイドライン(DeLiGHT プロジェクト)」に関して, 日本人間工学会は策定学会のひとつとして指針開発に協力してきた. デジタル・メンタルヘルスに関するエビデンスをレビューし, 関連 8 学会が連携して公表した指針について引き続き運営協力を継続する. 指針は AMEDE-LIFE ヘルスケアナビ・ポータルサイト (<https://healthcare-service.amed.go.jp/>) および DeLiGHT 特設サイト (<https://delight.sanei.or.jp/>) にて公開されている. また, 経済産業省が現在基盤整備を進めている職域における心の健康サービス選択支援ツール「ウェルココ」と DeLiGHT プロジェクトとの連携のあり方について検討を進める.

2-21.厚労省科研プロジェクト

{担当:榎原 毅,鳥居塚 崇}

- ・令和6年度よりスタートした厚生労働科学研究費・労働安全衛生総合研究事業「陸上貨物運送業を対象とした Minds 参照型腰痛予防対策ガイドラインの策定と予防対策の普及実装の推進」の運営を引き続き支援する.
- ・第 14 次労働災害防止計画において, 陸上貨物運送事業の腰痛災害防止が重点目標となっており, 日本人間工学会が中心学会 (JES 代表として鳥居塚崇理事長が協議会座長) となり, 関連4団体と連携して Minds 診療ガイドラインに準拠した「陸上貨物運送業の腰痛予防介入ガイドライン」を整備し, 社会へ発信する事業を推進する.
- ・2025 年度は無作為化比較対照試験(RCT)による実証介入研究が予定されており, その円滑な運営を支援する.
- ・主要陸上貨物運送業 7 団体・行政 (厚生労働省) ・アカデミアが集うコンソーシアム協議会を 2 回程度主催する. (2024 年度~2026 年度事業, 33,836 千円)

2-22. 人間工学事典発刊プロジェクト

{委員長:鳥居塚 崇, 副委員長:榎原 毅}

- ・丸善出版から打診されている, 人間工学の「全体像」ならびに「展望」を広く社会へ伝えることを目的とした「人間工学事典」を発刊することを目的としている. 本事典のポイントとしては, 物事を網羅的に解説するのではなく, 特に重要かつ読者の関心が高いと思われるテーマを選び出し, 調べ物用途だけでなく「読み物」としての不可価値のある見開き完結型の中項目事典として編纂することである. 掲げたテーマ(中項目)について, ときには近隣学問も取り込みながら解説することで, 読者がその周辺知識も一緒に知ることができ, 学術的興味がさらに広がって行くようなつくりを目指す. インターネットで手軽に用語検索して得る断片知識とは異なる, 全体像をとらえつつ読む→知る→さらに調べる, という知的体験・学ぶ楽しみを喚起する百科事典とする予定である (発刊は丸善出版より 2027 年 7 月を予定).
- ・日本人間工学会の公式百科事典とすべく, 学会員諸氏と共創して作り上げるため, JES66 大会のイブニングセッションを企画した:「新しい人間工学の百科事典をみんなで作ろう! (2025/5/23(金) 18:30~19:30)」。前年度検討を行った百科事典の構成(10章 259項目)案を本セッションで関係各位へ提示し, 学会員参加型で項目立ての精査を行う.その後, 執筆担当者の決定・執筆依頼を進める.

2-23.ABW プロジェクト

{委員長:兵頭 啓一郎,副委員長:福住 伸一}

(期間:2024.6~2027.2)

(1) 概要

ABW (Activity Based Working)とは、場所や時間、進め方などを特定せず、働く人がその時々の自らの活動(業務や作業内容)に応じて自ら適切な作業環境を選択できるようにする、新しい働き方である。これには、休憩なども含まれる。

10年ほど前から働き方改革という呼び声とともに、多くの企業がテレワーク/リモートワーク、オンライン会議の導入などを図ってきたが、マネジメント側の仕組みが追い付かず、さほど普及してこなかった。しかしながら 2020年3月以降の COVID-19 パンデミックにより、好む好まざるにかかわらず、在宅勤務を余儀なくされ、オンライン環境での組織マネジメントが求められるようになり、一気にこのような働き方が広がるようになってきた。

一方 ABW を適用すると 働く場所の人間工学についてこれまでの考え方を見直す必要性が指摘されている。これまでは 働く人は働く環境を提供されてきた。しかし ABW を適用すると 働く人が自ら働く場所を選択することになる。したがって、ABW を適用する場合、働く人自身が自らの働く場所の人間工学について正しい知識を持ち、自身の作業効率や安全性を向上させるための選択を行うことが必要となる。このような環境を実現するために、企業は従業員が自身の健康と安全を確保しつつ、最も効果的な働き方を選択できるよう支援する体制を整える必要がある。

本プロジェクトでは この状況を鑑み ウェルビーイングを実現するために ABW を適用する際に人間工学的に必要な要求事項を検討し 規格化を行う。なお、本プロジェクトは、経済産業省の標準化推進補助事業に基づいて実施する。

(2) 3年間の目標

1) 本プロジェクトの目標

前述のように、本プロジェクトでは、経済産業省の標準化事業に基づいて行うため、以下の3つの国際標準および JIS の開発を目標とする。

- a) 既に提案済みの技術報告書(TR)「ABWに関連する人間工学」の開発
- b) 新規に提案する国際標準(IS)「ABWに関連する人間工学の要求事項」の開発
- c) 新規に提案する国際標準(IS)「ABWを実施する際の人間工学的要求事項(仮称)」の開発

2) 規格策定に向けての指標化

- a) 経済的効果: ABW の導入により企業の生産性向上を目指す。具体的には、生産性指数を定めその向上のために ABW 導入企業の生産性を定量的に評価できるような指標を定め、前年度比での向上を定量化できるようにする
- b) 社会的効果: 効果: 従業員のウェルビーイング向上を目指す。具体的には、ウェルビーイング指数の向上: ABW 導入企業の従業員の満足度を指標定め、前年度比での向上を定量化できるようにする。

(3) 提案の成果と影響

2026年度の終了時点で、ABWのTRとISが確立されることにより、国内外の企業における新しい働き方の定着と理解が進む。加えて JIS の策定を開始することにより 我が国での ABW の理解が深まり、正しく運用されることにより我が国企業でのウェルビーイング指数が高まることを期待している。

(4) 2025年度目標

以下の3つの国際標準および JIS の開発を目標とする。

- 1) 既に提案済みの技術報告書(TR) ISO TR 9241-520「ABWに関連する人間工学」の開発を継続し、最終国際投票(DTR投票)を実施し、出版する。

- 2)新規に提案する国際標準 (IS) ISO 9241-5xx「ABW に関連する人間工学の要求事項」の開発を継続し, working group にて新規開発提案 (NP 提案) に合意し, SC4 にて NP 投票を行う.
 - 3)新規に提案する国際標準 (IS) 「ABW を実施する際の人間工学的要求事項 (仮称)」の開発を継続し, 委員会内で概略内容を検討し, working group にて新規開発提案を行う.
- 注:技術報告書 は, 国際標準 (IS = International Standard) を制定するにあたり 技術的な背景などを説明する報告書である. 要求事項は書けない. 国際標準 (IS) は, 要求事項を盛り込んだ標準である.

2-24.子ども ICT プロジェクト

{委員長:柴田 隆史, 副委員長:岡田 衛}

- (1) タブレット端末や大型ディスプレイなどの ICT 機器が学校に導入されている状況を鑑み, 子どもが ICT 機器を活用する上での人間工学課題を検討し, 学校教員のみならず児童生徒に対しても分かりやすく人間工学の視点や重要性を伝えることを, 引き続き検討する.
- (2) 第 66 回大会におけるシンポジウムや他の研究会や会議などの機会を活用して議論を深め, 子どもの ICT 機器利用の在り方を検討する.

3.支部活動

3-1.北海道支部

{支部長:小林 大二}

(1) 支部役員会

日時:2025年7月上旬

場所:Web開催

議題:

- ・2024年度北海道支部事業報告,2024年度決算報告
- ・2025年度北海道支部事業計画,2025年度北海道支部予算執行計画
- ・2025度北海道支部総会の実施計画
- ・その他

(2) 2025年度支部総会

日時:2025年9月19日(予定)

場所:公立千歳科学技術大学

議題:

- ・2024年度北海道支部事業報告,2024年度決算報告
- ・2025年度北海道支部事業計画,2025年度北海道支部予算執行計画
- ・その他

(3) 2025年度支部大会

日時:2025年9月18日~19日(予定)

場所:公立千歳科学技術大学

基調講演:田中 孝之 先生(北海道大学)

セッション:学生セッション,一般セッション,懇親会を対面にて開催予定

3-2.東北支部

{支部長:高橋 信}

(1) 支部役員会

年3回の開催を予定(支部研究会時に開催)

他,必要に応じメール審議にて実施

(2) 支部総会

1)日時:2025年5月上旬開催(予定)

2)場所:電子メールにて開催

3)議事:2024年度事業報告,2024年度決算報告
2025年度事業計画案,2025年度事業予算案,など.

(3) 支部研究会

年3回の開催(対面とオンラインのハイブリット)を予定.3回のうち1回は,2024年度に大変好評であった工場見学会として実施する計画である.また,これまで山形市と仙台市を中心に行ってきた研究会について,支部内の他の地域での開催を検討し,活動のより一層の活性化と交流を目指す.

(4) その他

研究会では,研究者と企業人・実務家との意見交換を積極的に行う.

3-3. 関東支部

{支部長:松田 礼}

- (1) 第55回関東支部大会・第31回卒業研究発表会
 - 1)開催日:2025年12月14日(日)
 - 2)大会長:武藤憲司先生(芝浦工業大学)
 - 3)場所:芝浦工業大学 豊洲キャンパス(東京都江東区)
- (2) 支部総会
 - 1)開催日:2025年12月14日(日)(予定)
 - 2)開催方法:関東支部大会時に対面開催予定
- (3) 支部委員会
 - 1)開催日:年2回開催(予定)
 - 2)開催方法:1回は関東支部大会時に対面開催,他1回はWeb会議またはメール会議にて開催予定
- (4) 講演会(または見学会)
 - 1)日時:2026年3月(予定)
 - 2)場所:計画中
- (5) ニュースレターの発行
メーリングリストにより支部大会総会の案内,講演会の案内等を発行予定

3-4. 東海支部

{支部長:横山 清子}

- (1) 日本人間工学会東海支部総会開催
 - 開催日時:2025年5月10日(土) 15:00-15:30
 - 開催場所:名古屋市立大学滝子キャンパス1号館
 - 講演会:斎藤真先生,大西範和先生 15:30-17:00
- (2) 支部役員会
 - 第1回支部役員会:2025年5月10日(土) 14:00-15:00
 - 年3~4回程度開催,必要に応じてオンラインまたはメール会議を開催予定.
- (3) 日本人間工学会第67回大会実行委員会開催
- (4) 日本人間工学会東海支部2025年研究大会の開催
 - 開催日:2025年11月1日(土)
 - 開催場所:名古屋大学(名古屋市千種区)
 - 大会長:名古屋大学未来社会創造機構 青木宏文 先生
- (5) 東海支部企画
 - 人間工学測定技法講座開催 1~2回
 - ナゴヤキャリアタイムサポーターへの登録
 - 「初学者のための測定技法」書籍執筆の検討

3-5. 関西支部

{支部長:有馬 正和}

- (1) 企画・行事等
 - 1)2025年度 支部通常総会 2025年5月18日(日) 大阪公立大学I-site なんば
 - 2)2024年度優秀発表賞 表彰式(2025年度通常総会終了後に開催)

- 3) 春季特別企画(支部通常総会と併催)
- 4) 2025年度 第1回人間工学異分野連携技術者交流サロン 7月頃 にできれば
- 5) 2025年度 第2回人間工学異分野連携技術者交流サロン 10月頃 にできれば
- 6) 2025年度日本人間工学会関西支部大会
 大会長: 来田 宣幸 教授(京都工芸繊維大学)
 開催日: 2025年12月13日(土)
 会場: 京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス(京都市左京区)
- 7) 2025年度 第1回見学会 2026年1月頃 にできれば
- 8) 2025年度 第3回人間工学異分野連携技術者交流サロン 2026年2月頃 にできれば

(2) 会議等

- 1) 2024年度会計監査 2025年4月3日(木)大阪公立大学 I-site なんば
 - 2) 第1回幹事会 2025年4月ごろ(オンライン開催)
 - 3) 第2回幹事会・第1回支部大会実行委員会 2025年7月ごろ 京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス
 - 4) 第2回支部大会実行委員会 2025年10月ごろ(オンライン開催)
 - 5) 第1回評議員会・役員会合同会議(支部大会と併催) 2025年12月13日
 - 6) 2026~2027年度支部長・副支部長・評議員選挙 2025年12月~2026年1月(電子投票)
 - 7) 第3回幹事会(メール審議:優秀発表賞受賞者の選出) 2025年12月下旬
 - 8) 第1回評議員会(メール審議:優秀発表者の承認, 支部長・副支部長・評議員選挙結果の承認) 2026年2月
 - 9) 第4回幹事会 2026年2月ごろ(オンライン開催)
- その他, 必要に応じて, 企画幹事会および評議員会メール審議を行う

3-6. 中国・四国支部

{支部長:石原 恵子}

(1) 支部理事会開催

- 第1回: 2025年6月下旬, オンライン開催 (2025年度事業計画, 支部表彰内規等について討議)
- 第2回: 2025年12月上旬, 支部大会のときに対面で開催(代議員選挙の結果に基づき時期支部長および支部理事会構成員の決定, 2026年度第57回支部大会開催等について討議)
- 第3回: 2026年3月下旬, オンライン開催(2025年度事業報告などを討議)

(2) 支部代議員会開催

2025年12月上旬, 支部大会のときに対面で開催

(3) 支部総会開催

2025年12月上旬, 支部大会のときに対面で開催

(4) 2025年度第56回支部大会開催

2025年12月6日(土) 場所: 岡山県立大学(岡山県総社市)

大会長: 齋藤誠二先生(岡山県立大学)

第1回: 2025年6月下旬, オンライン開催 (2025年度事業計画, 支部表彰内規等について討議)

(5) 支部代議員選挙: 本部代議員選挙と同時期に実施.

(6) 支部企業見学会開催

ダイヤ工業株式会社(岡山市)と開催日調整中.

(7) 支部講演会開催

演者: Konrad Szocik 先生(UITM, Poland), 開催日 2026年3月下旬で調整中.

3-7.九州・沖縄支部

{支部長:小崎 智照}

(1)活動計画

1)2025年度支部代議員会

・開催日:未定

・会 場:未定(オンライン会議を予定)

2)2025年度支部総会

・開催日:2025年11月29日(土)

・会 場:福岡市博多駅周辺(予定)

3)第45回支部大会

・開催日:2025年11月29日(土)

・会 場:福岡市博多駅周辺(予定)

・大会長:小崎智照(福岡女子大学)

4.研究部会活動

4-1.感性情報処理・官能評価部会

{部会長:石原 正規}
<2023.4.1~2026.3.31>

(1)テーマ

2025年度は以下の2点をテーマとする

- 1) 感性情報処理と官能評価に関わる諸問題を多角的に取り上げ、研究者・デザイナーおよび職人・熟練者どうしの情報交換と研究の活性化、および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者およびプロの職業人・設計者の育成をはかる。
- 2) 基礎領域研究の学びを通して、人間の知覚や認知についてのメカニズムと機能的特徴を理解する。またそれらがどのように行動と関わっているのかについて理解を深める。実験心理学、行動科学の視点から、環境への適応に関わる諸問題の理解、解決に役立てるための機会を提供するとともに、若手研究者および実践者の育成をはかる。

(2)手段・方法

感性情報処理や官能評価の基盤となる人間の感覚・知覚・感情・認知・行動等の諸特性、およびそれらの測定・評価方法や数理モデル等の研究成果や製品、サービス等の開発成果について先端的独創的な研究を紹介する。これに加えて、講演会や若手研究者を主体とした研究会や関連の研究・開発施設や工房などの見学会などを必要に応じて企画・実施する。以上の活動を通して研究者やプロの職業人・設計者相互の情報交換や交流をはかるとともに、両者の研究意欲を喚起し、人間工学に限定されない具体的かつ有益なアウトプットの創出の機会を支援する。

(3)期待される成果

主に感性情報処理と官能評価に関わる研究者の関心や専門領域を共有しつつ、新たな情報や手法に刺激される機会、学ぶ機会を広範に提供することにより、特に若手研究者の裾野の拡大や関連研究領域との交流を活性化させることが期待できる。また、研究成果の実用化に伴うさまざまな困難や課題を相互に共有・議論する機会を提供し、支援することを通して、人間工学の一層の発展に資することが期待できる。

以上は、人間工学の実践における人間理解の拡大・深度化につながるものと考えられる。それらの活動過程で、これまで職人や熟練者の職能・技能としてのみ伝えられてきたモノづくりのノウハウを技術化、見える化し、それらを広く一般に提案し、還元することで、これまでの研究手法や体験、モノづくりに新たな価値(例えば感性価値や経験価値)を付加することを可能とする。

4-2.衣服人間工学部会

{部会長:土肥 麻佐子}
<2022.4.1~2027.3.31>

(1)活動テーマ

2012年度より継続して「グリーンファッションに関する研究」をテーマにした活動を行なっている。今年度についても、衣服のサプライチェーンの側面から、着装のあり方、廃棄ゼロを目指した衣服の構造・デザイン、衣服材料の使い方、衣服のリサイクル、フェアトレードなど、SDGs達成への貢献を視野に入れた研究活動、啓蒙活動を進めていく予定である。さらに、このような取り組みを具現化する方法の一つとして、サイズ・ジェンダー・エイジを問わないボーダーレスデザインについても考えていきたい。

(2)活動計画(方法・手段)

- 1) 幹事会 Zoomやメール、対面による幹事会の開催
- 2) 研究例会の開催 Webと対面で2回程度開催予定
 - ・8月 web講演会およびwebワークショップ
 - ・2月 工場見学およびweb講演会

(3)期待される成果と展望

講演会、工場見学、ワークショップなどを行うことにより、グリーンファッションに関する研究・教育についての意見交換および研究交流の活性化が期待できる。また、講演会や対面での見学会の開催により、消費科学的立場より地球環境問題に対する意識の向上に貢献できると考えている。今後これまでの活動の成果を冊子やDVDなどにまとめることについても検討したい。

4-3. 医療労働関連MSDs 研究部会

{部会長:松崎 一平}

<2022.6.1~2027.3.31>

(1)活動テーマ

パーパス「すべての医療従事者を守る快適な労働環境をつくる」を実現するために、2025年度は、懇話会・総会・世話人会を通して様々な医療現場のMSDs 課題の洗い出しを行い、医療従事者、学会員、企業の組織構築を行うとともに、多様性に配慮しながら新たな世話人を拡充して、中期目標、提言書等アウトプットの設定を具体的に進める。

(2)手段・方法

1) 医療労働関連MSDs 予防のためのツール・教材の検討・開発

懇話会・総会を通じて、様々な医療従事者(医師、看護師、技師、理学療法士等)のMSDs 課題を抽出する。

医療と私の人間工学100Tipsを充実させて、オンデマンド教材、提言書の発刊を視野にバックキャスト手法で中期計画を策定し実行する。

2) 医療労働関連MSDsに関する教育機会の提供(研究会の開催)

オンライン会議形式による医療MSDs 懇話会では、引き続き話題提供を呼び水に活発な議論を行う。全国大会や地方大会においては対面形式でMSDs 軽減のための機器体験会やワークショップ等を企画する。

・活動予定

3月29日 第6回医療MSDs 懇話会 HCD-Net 共催セミナー テーマ「カテーテル治療から手術ロボットの人間工学」

5月 全国大会 理学療法×作業療法×人間工学 ー日本理学療法士協会ジョイントシンポジウムー

7-12月 第7,8回医療MSDs 懇話会 テーマ「センシング技術(仮)」、「歯科領域とMSDs(仮)」

3) 関連学会・研究部会などとの共同企画の実施および連携

医療系学会、産業衛生系学会、理学療法系学会などを含む関連学会との共同企画、連携を進める。

4) 医療労働関連MSDs 軽減のグッドプラクティス・機器情報の収集と発信

グッドプラクティスデータベース、研究部会HPを活用して医療MSDs軽減に繋がる製品の収集・発信に努めるとともに、研究部会HPを活用して、リレー形式の人間工学会員による教育コンテンツ(医療と私の人間工学100Tips)を継続発信する。

5) その他、本研究会趣旨に必要と思われる諸活動の実施

安定した研究部会活動推進のため事務局支援も含めた新たな世話人を選定する。

(3)期待される成果

MSDsに関心のある研究者と問題意識を共有し、人間工学手法を学ぶ機会を広範に提供することにより、若手研究者の勧誘、関連領域の学問との交流を活性化させることが期待できる。研究部会で知識を得た医療従事者が各医療系学会等で教育・啓発するとともに、医工連携の推進によりMSDs軽減に繋がる人間工学に基づいた医療関連機器の開発が進み、人間工学の発展および学会員の増員に寄与することが期待できる。

4-4.航空人間工学部会

{部会長:船引 浩平}

<2023.4.1~2028.3.31>

(1)テーマ

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、他分野を含む幅広いヒューマンファクター研究にかかわる進展、事故事例から得た人間特性及びヒューマンマシンインターフェイスに関する事故防止方策の動向を分析検討する。

(2)方法・手段

1) 研究例会(公開講座)の開催

日時:2025年6月18日(水)13:00-17:00(予定)

場所:野村不動産天王洲ビル2階会議室(ウイングホール)

講演:航空安全に関するテーマを予定

2) 施設見学会の実施

ヒューマンファクターや各企業による安全への取り組みなどを介し、学び・知見を得ることを目的に、施設見学会を計画・実施する。可能な限り、一般公開していない施設・場所を対象とする。

また、人間工学に関する基本知識の学習、他研究部会の講演、イベントへの参加なども検討する。

3) 部会ホームページの運営

インターネットを使った部会ホームページを活用して当研究部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示や会員からの参加申し込みにも活用する。また、例会講演資料の電子化への対応の利便性を向上させる。

4) 委員会・幹事会の開催

幹事会社が変更されるので、引継ぎを行い滞りのない委員会及び幹事会運営を行う。部会活動を円滑に行うとともに、会員の意見を部会活動に反映させるよう努める。対面式・オンライン形式の両方を活用し、効率化をはかる。

5) 部会活動条件の実施計画

学会誌への投稿、または学会の全国大会または支部大会での発表について検討、実施する。

(3)期待される成果

例会(公開講座)及び見学会の活動を通じ、航空安全の推進に関わる官・民・学の関係者が交流する場を当部会が提供する。関係者がお互い情報を共有し、議論を行うことや、新たな人脈を構築することで航空人間工学や航空安全技術に関する動向等の知見獲得が可能となり、航空の安全の推進へ大きく貢献できるものと考えられる。

4-5.アーゴデザイン部会

{部会長:郷 健太郎}

<2024.4.1~2029.3.31>

(1)活動テーマ

2025年度は、フューチャーエクスペリエンス(FX)の確立を目指し、実践的な手法による事例を通じた研究活動を展開する。また、これまで取り組んできたビジョン提案型デザイン手法との関係性を明確にし、アーゴデザインの実践を深化させる。加えて、社会環境性とその実現可能性を踏まえた人間工学研究の重要性を再確認し、「ビジョンと社会実装」に関する研究と議論を、アーゴデザインの視点から継続的に推進していく。

(2)手段・方法

1) フューチャーエクスペリエンス(FX)-WGの活動強化

フューチャーエクスペリエンス(FX)-WG の活動を今年度も更に強化していく。部会活動のテーマである「「ビジョンと社会実装」～ビジョン創りとこれを社会に実装するための方法論の研究～」の検討を本格化させ、新たな方法論確立に向け、ワークショップやミーティングの機会を増やし、その研究活動と方法論発表の機会を創り出す。

2) フューチャーエクスペリエンス(FX)の啓発・普及活動の実施

「フューチャーエクスペリエンス(FX)」については、これまで同様に EXPERIENCE VISION 普及のためのイベントを開催する。また、フォーラムや合宿研究会、ワークショップなどの機会をとおして、「ビジョン創りとこれを社会に実装するための方法論の研究」の活動との連携を図る。

3) 学生会員に対する部会活動の充実

定着した学生会員制度により、学生会員の構成が固定化している。そのためコンセプト事例発表会等を通じて、これまで以上に学生の研究やデザイン活動を支援する活動の充実を図り、新たな学生会員の獲得を目指す。加えて、次世代を担う研究者やデザイン実務者の育成を強化する。

(3)期待される効果

アーゴデザインに関心を持つ研究者や実践者と問題意識を共有し、研究開発を協働して進めることにより、人間工学分野への新たな関与や参入の機会を創出することが期待される。とくに、フューチャーエクスペリエンス (FX)に関する議論を通じて、将来の社会や環境のあり方を展望し、人間生活を包括的にデザインするための基盤を提供することができる。これにより、人間工学分野に新たな知見と視座をもたらし、ひいては次世代の人間工学の基盤形成に寄与することが期待される。

(4)活動予定

- 5 月 幹事会(幹事の役割,担当行事の検討)
- 7 月 FX フォーラム開催,幹事会
- 9 月 コンセプト事例発表会,幹事会
- 11月 見学会開催,幹事会
- 12月 幹事会
- 1 月 FX フォーラム開催(HCD_net 京都サロン合同),幹事会
- 3 月 2025年度 合宿研究会,総会,幹事会

4-6.海事人間工学研究部会

{部会長:村井 康二}

<2023.4.1~2028.3.31>

(1)テーマ

日本は海に囲まれた島国であることから、他国に比べて多くの方が海に携わった仕事に従事している。更に、仕事として関わりが無くても、非常に多くの方が趣味としてマリレジャーを楽しんでいる。しかしながら、これら海事の分野において、人間工学を学術的に取り入れた研究や製品開発に活かした事例は現時点ではまだまだ少ない。そこで、本研究部会の活動を通して、人間工学を海事分野に広く普及させ、海事の現場に人間工学に基づき設計されたシステムや製品導入を加速させる。

(2)手段・方法

1)企画セッションの提案

毎年度、人間工学会の全国大会や支部大会で本研究部会が主体となった企画セッションを行い、様々な分野の人間工学の研究者と議論を交わし、海事人間工学研究の活性化を行う。2025 年度は支部大会で企画セッションを行う予定である。

2)見学会の開催

2025年度においては、海事関係施設の見学会を企画し、実務者との意見交換会を企画する予定である。

3)座談会の開催

海事人間工学研究部会の研究課題の一つである自動・自律化船にかかる課題等について、人間工学を専門とする研究者や技術者が討論することで、海事分野における知識・実践をメンバーに共有する。

4) 幹事会の開催

本研究部会の円滑な運営を図るため、毎年度2回以上の幹事会を開催する。また、コミュニケーションの頻度を増やすため、WEB会議システムも活用する。

(3) 期待される効果

企画セッションや見学会・座談会の開催を通じて、最新の海事関連研究に関する情報を発信する。また、研究者や技術者との連携を進展させることで、更なる海事関連研究の活性化及び課題解決を図る。

4-7. ワーク・アーゴノミクス研究部会

{部会長:井出 有紀子, 青木 和夫}

<2023.4.1~2028.3.31>

(1) テーマ

在宅勤務やオンライン会議などのオフィスワークでの新しい働き方や環境も踏まえつつ、ポストコロナ時代の働き方や定年延長や人生100年時代、多様性雇用を見据えて、働く人々の健康と安全を守るための人間工学について研究するとともに、知識の普及を図ることを目的とする。

(2) 手段・方法

- 1) 第66回大会における企画セッション「高齢者の体力と運動能力」の実施
・「年齢別に見た体力測定値」 山田クリス孝介(東海大学)
・「高齢者を対象とした運動教室とその効果」 村木里志(九州大学)
- 2) テレワークやモバイルワークの人間工学ガイドライン(FAQなど)の改訂
- 3) 人間工学専門家認定機構・委員会・他部会等と連携し、高齢者や女性の雇用対策や多様な働き方を行っている事業所の見学会の実施、またはセミナーの開催
- 4) 日本人間工学会誌「人間工学」に開催の報告
- 5) メールやZoom, 対面による幹事会・部会の開催

(3) 期待される効果

在宅勤務やオンライン会議などのオフィスワークでの新しい働き方に関して、今年度は、ガイドラインとしてアウトプットすることにより、社会への発信とプレゼンス向上が期待できる。また、高齢者や女性の働く環境に関しては、第66回大会の企画シンポジウム「高齢者の体力と運動能力」で、近年の高齢者の体力と運動能力についての知識と実践例を知ることによって、労働者の高齢化への対応についてより深い議論を期待できる。

4-8. ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長:吉武 良治}

<2025.4.1~2030.3.31>

(1) 2025年度研究部会テーマ

- 1) 今あるデータを活用した人間工学
- 2) 「+人間工学」活動の開始
- 3) 研究部会活動およびビッグデータ活用ノウハウ集

(2)活動内容(手段・方法)

- 1) 年間を通じて幹事間の情報交流を主に電子メールを用いて行う。
- 2) 年3回の講演会・談話会・勉強会等をオンラインにて開催する。
- 3) 汎用データの人間工学的活用の事例集をまとめる。

(3)期待される成果

- 1) データサイエンティスト他,ビッグデータを扱う人材は増加している。マーケティングやモノ作りなどで,データの解析には人間の特性を知る必要があることが多いため,それら研究者・実践者に気づきと人間工学の知識を加える,「+人間工学」活動を継続し,人間工学の普及に貢献する。
- 2) 人間工学の視点でまとめられた汎用的なビッグデータの事例集を世の中に提供することで,人間工学を社会に普及させる。

4-9.システム大会部会

{部会長:衛藤 憲人}

(1) 本会の目的

多種多様な分野の研究者が集い,学生や若手研究者の最初の発表の場(特に,日本人間工学会全国大会(毎年6月頃開催)・各地方支部大会前の所謂,萌芽的研究段階での発表)として好評である本学会も,四半世紀を大きく越え,今年で34年目を迎える。人間工学をシステム論的立場から研究・議論することを目的に,感性情報処理・官能評価部会,聴覚コミュニケーション部会,旧ヒトをはかる部会,旧座研究部会,旧視覚エルゴノミクス研究部会を中心として立ち上がった本部会であるが,近年,全国各地から大学関係者,企業研究者の発表も増え,医学から工学,さらには人文科学領域にわたる幅広い分野の研究者が集い,議論できる同大会は盛況である。今後も,より活発な発表の場としての役割を果たすべく,次回の大会(第34回システム大会)の企画を行なっている。

(2)活動の内容

第33回システム大会(2024年度(令和六年度)大会,早稲田大学主催)をハイブリッド(対面・オンライン)にて開催した。二日にわたり行われた同大会は,のべ100名を超える参加者を集め,極めて盛況であった。特に,小規模学会の特性を活かし,十分な発表・質疑応答時間(発表時間20分,質疑応答10分)を確保した発表スタイルは,活発かつ深い議論を可能にし,来場者の方々にも極めて好評であった。今後も,同大会を通じて,学生,若手研究者にも人間工学への興味を持ってもらい,日本人間工学会会員にすべく努力する所存である。現在,次期大会(第34回システム大会,主催校未定)開催に向け,大学教員を中心とした年数回の幹事会実施を計画している。

一般社団法人日本人間工学会2025年度 委員会/担当 プロジェクト 一覧

委員会/担当名	担当・委員長・副委員長等	活動のポイント等
常設委員会・担当（長期的及び継続的に実施する事業）		
総務担当	河合 隆史、申 紅仙	学会運営の執行管理、事務局機能の強化の検討
財務担当	横井 元治、吉村 健志	財務管理と学会財政に関する中長期計画等の提案
広報委員会	松田 文子、下村 義弘	HPの運用推進、GPDBによる実践事例公開、人間工学の社会発信
編集委員会	村木 里志、近井 学	学会誌の編集と発行、電子投稿・査読システムの運用
国際協力委員会	持丸 正明、八木 佳子、小谷 賢太郎	国際人間工学連合・アジア人間工学デザイン会議等、国際協力活動の推進
ISO/TC159 国内対策委員会	佐藤 洋、横井 孝志	ISO/TC159 に関わる規格の提案・作成・審議、JIS 規格案作成と普及
表彰委員会	吉武 良治、國澤 尚子	表彰制度の見直しと整備、各賞受賞候補者の選考、国際表彰の推進
学術委員会	加藤 麻樹、能登 裕子	日本学術会議との連携、科研費の細目要望
人間工学専門家認定機構	榎原 毅、仲谷 尚郁	認定・再認定実施、講演会・セミナー等の開催、GPDB への協力
臨時委員会・担当（目標と期間を定め、成果を組織的に活用する事業）		
若手支援委員会	石橋 圭太、齋藤 誠二	学生や若手が学会活動に継続的に関わる活動や枠組みを検討
企業活動推進委員会	横山 詔常、井出 有紀子	企業活動や産学連携プロジェクトの見える化、活性化を検討、セミナー等の企画・実施
国際誌検討委員会	榎原 毅、村木 里志	人間工学分野の国際誌の現状を調査し、今後の戦略を検討
普及委員会	松崎 一平、和田 一成	人間工学の普及、浸透を目的とした、社会向け情報発信やセミナー等の企画・実施
戦略・将来構想委員会	持丸 正明、鳥居塚 崇	産業変化に応じた人間工学の役割の検討および学会や行政に向けたその情報発信
PSE 委員会	鳥居塚 崇、榎原 毅	IEA 改訂コアコンピテンシーに基づき、JES と BCPE-J が連携しながら人間工学の教育、普及、実践のサイクルを確立することを推進
利益相反・倫理委員会	大須賀 美恵子、鳥居塚 崇	利益相反に関する規程の整備ならびに規程に基づく運用／当学会の倫理指針について国の指針と照合させるべく検討
人間工学研究標準化推進委員会	佐藤 洋	標準化活動の枠組みを活用した、JES 会員が実施する研究の社会実装の促進および支援
選挙管理委員会	小谷 賢太郎	一般社団法人日本人間工学会代議員及び役員選挙の実施
役員候補者推薦委員会	鳥居塚 崇	次期役員候補者を検討・推薦
第 66 回大会担当	榎原 毅	2025 年 5 月 21～23 日に大会開催
第 67 回大会担当	横山 清子	2026 年 5 月 23～24 日に大会開催

プロジェクト		
AMED	榎原 毅、大須賀 美恵子	8学会合同によるデジタルメンタルヘルスの科学的知見の整備事業
厚労省科研	榎原 毅、鳥居塚 崇	5 学会・研究会連携による陸上貨物運送業の腰痛予防ガイドラインの整備事業
人間工学事典発刊	鳥居塚 崇、榎原 毅	丸善出版から打診されている、「人間工学事典」発刊(企画,執筆,編集,発刊準備)
ABW	兵頭 啓一郎、福住 伸一	ABW 適用の際の人間工学的見地からの要求事項に関する検討および規格化
こども ICT	柴田 隆史、岡田 衛	学校等の ICT 機器の使用に関する人間工学課題の検討と情報の共有、ガイドライン作成準備